勝利の伝説シェブロンラインは最高級品の証。

"Chevron-Line" ist der Beweis höchster Qualität.



勝利をめざすなら、選ぶべきだ!

——無言の威圧感を与えるヒュンメル——

DOUBLE SCORE

総発売元 株式会社ダブルスコア/総代理店 大松貿易株式会社
大阪市南区難波新地3-27プリンスビルB1 〒542 TEL. (06) 213-6646

★第11回全国中学校大会を見て★

男女とも大型化して高度の技術を駆使

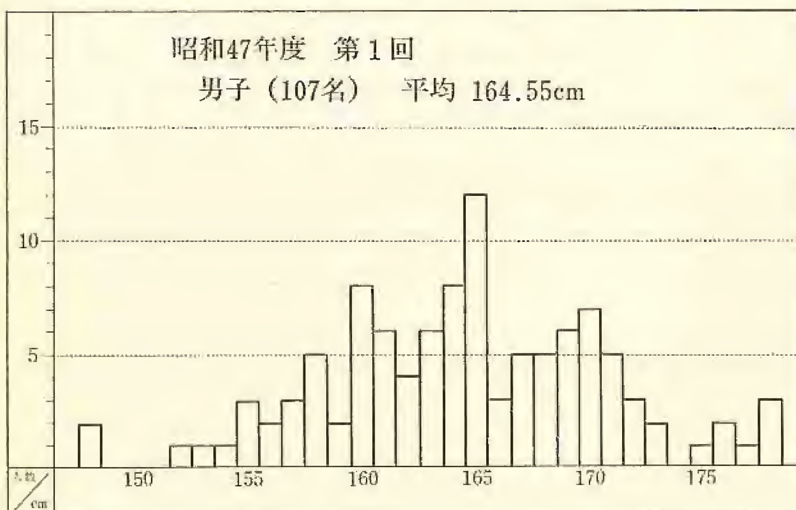
安藤純光

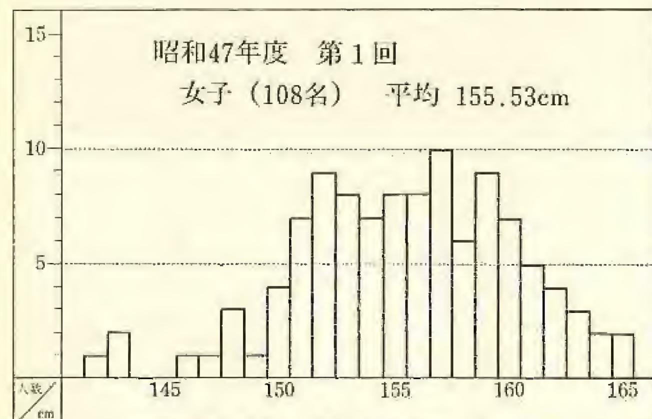
昭和57年度、第11回全国中学校大会は、8月22日・23日・24日の3日間にわたって北陸のハンドボールのメッカ氷見市において開催された。

全国からブロック予選を勝ちぬいた男女それぞれ16チームが、この日のために磨きあげた技と、鍛えた力を発揮しての競技は一つ一つが見応えのある好ゲームであった。やがて日本のハンドボール界を背負って立つ中学生諸君のプレーぶりを目の当りにして、大変力強く感じた。

それぞれのゲームの内容・技術的な戦評については他にゆずるとして、第7回愛知県、第8回東京都以来久しぶりに見た中学生大会で、とくに感じた点について述べることにする。

男女中学生プレーヤーの体格のよいことに驚いた。とはいっても前の大会の参加選手のデーターをもっているわけではないので、見た感じによるものだが。前回見たときにも大型選手はいたが、全体的に大きくなっているのに目を見張った。そこで参加選手の身長についてプログラムにある数字をまとめてみた。そして第1回の同じようにプログラムにある数字と比較して、小生の目がまちがいでなかったことが確認できた。結果は表のようになった。





「大きい」はやはり有利

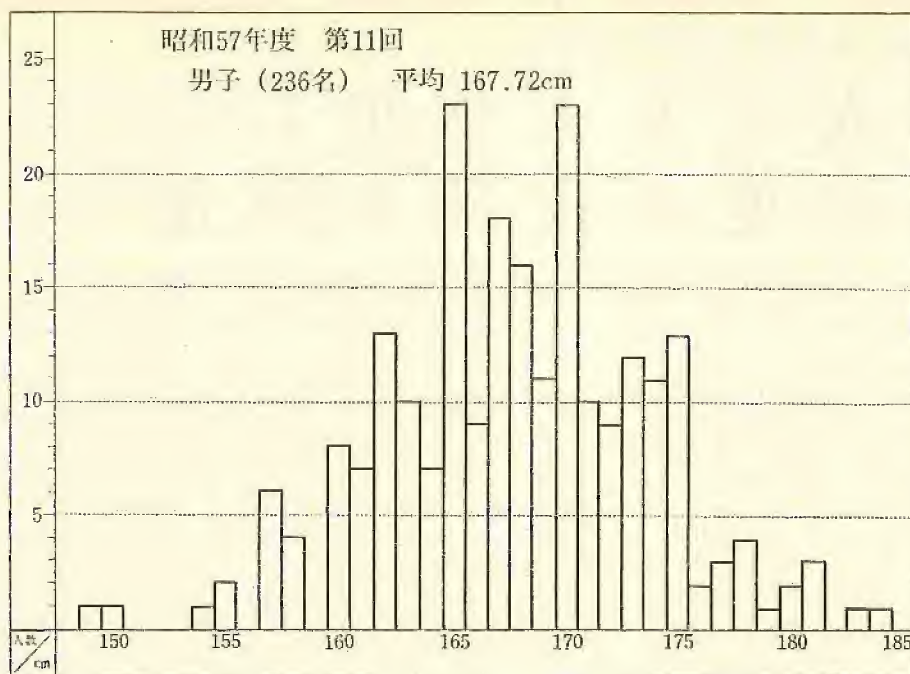
第1回大会の参加チームは男子チーム（119名、1チーム身長の記入なし）、女子9チーム（108名）であった。第11回大会では、男女ともそれぞれ16チーム、男子236名、女子240名である。

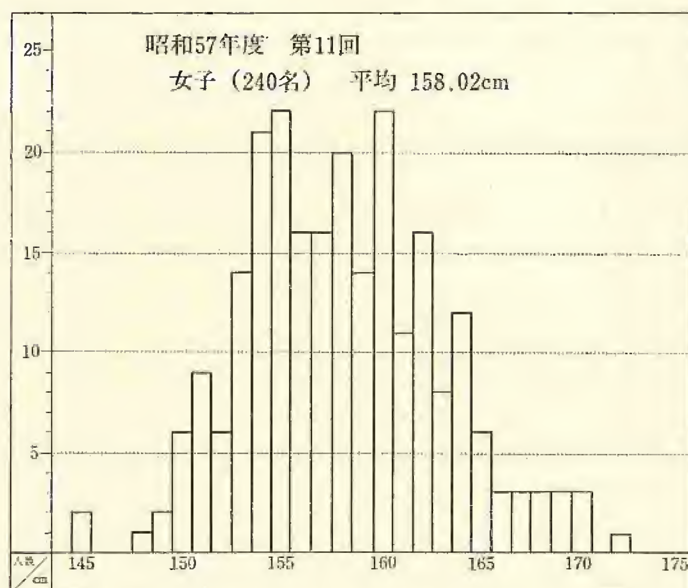
第1回大会の男子の平均身長は164・6cmであるのに対して第11回大会では167・7cm、女子では第1回の平均身長は155・5cmであるに対して第11回大会では158・0cmと男女とも3cm大きくなっている。

また第1回大会の男子で170cm以上の選手は24名で23・3%であったが、第11回大会では184cmを最高にして95名、40・2%に達する。女子の場合も第1回大会の160cm以上の選手は23名で21・3%であったが第11回大会では、172cmを最高にして91名、37・9%である。

この数字の変化はチームが大型化されたことを意味している。「大きい」というだけが全てではないし、「大きさ」だけがチーム力を

表わすものではないことは云うまでもないが、しかし「大きい」ということが、有利に競技も展開するための要素であることも確かである。
　ちなみに第11回大会の上位入賞チームの平均身長は、大会参加選手の平均身長をはるかに上回っている。男子の部1位の芦城中学は171・5cm、2位汐路中学は171・8cm、3位松橋中学は168・3cm、同じく3位西部中学は170・2cmであり、松橋中学を除けば3〜4cm平均を越えている。女子の場合も1位芦城中学159・9cm、2位小杉中学158・2cm、3位小川中学160・0cm、3位豊国中学163・7cmと男子ほどではないが平均身長を上回っている。(これらの数字は、第1回大会についてはエントリーされた12名、第11回大会については同じくエントリーされた15名についての集計である。したがって、実際に競技に出場した選手の平均身長はさらに大きくなると考えられる)。
　このように大型化した中学生選手が非常にレベルの高いハンドボールを展開した。とくに目をひいたのはボールのあつかい方である。使用球は2号(女子用)ボールであるが、とくに男子は大方の選手がボールを握って自由自在にあつかっていた。ボールを握ることによって生れる高度な技術を駆使しての競技は、まことに見ごとなものであった。





『ハンドボール』
57年9月号(第211号)目次

全国中学校大会を観戦して

目を見張る体力体格の向上

―将来の夢ひろげた熱戦の数々―

川上整司

長い夏期休暇も終わりに近づき、富山湾にも秋の気配が感じられる頃、高校界の名門、幾多の日本の名選手を生んだ氷見の地で、第11回全国中学校大会が開催された。

夢多き青春を迎えようとしている中学生、彼等はその中で友情を知り、練習の中で共通の目的を覚え、そして精神力、体力の全てを尽し、監督やコーチの良き指導の基に選手達は、それらに耐え忍んでここまで駒を進めたのである。

若人の胸躍る開会式も、北部中学校校庭を鮮かに色どる中学ハンドボールの祭典に相応しいものだった。ハンドボールの将来に通じる芽が、全国各地でこんなに吹き出しているのを目の当たりに観て、今後のハンドボール界に期待出来る自信を持った。と同時に、このまま高校、大学、あるいは実業団とどうかハンドボールを続けて欲しいとの願いで胸が熱くなるのを感じた。

我々は今まで、高校を中心に大学、日本リーグまた、ナショナルチームの登場する国際試合を主に観てきたが、全国の中学大会を観戦して、やはり、ここに原点があるのを、遅ればせながら感じさせられた。これからは、ビッグゲームと平行して観ていくことが必要である。どうか、大学、実業団の指導者にもチーム作りを離れて、未完成ながら将来に続く技術を是非、観て欲しいと思う。

技術的にも非常に優れていたし、何といっても体格、体力面の向上が目立った。

男子では、1m80以上の選手が8名、女子では、70以上が4名、60以上は何んと20名の多くを数えた。従って、この大会には残念ながら出場を果たせなかったチーム中、全国では相当の数にのぼる長身選手がいる筈である。

これらの8名の選手は、いずれも良い技術を持ち、その動きに合わせて、小さな水澄ましのように動き回る小柄な選手達も大活躍し、長身選手とのコンビもかなり高度な技として表現されていた。

印象的なチーム

男女共に優勝された石川県の芦城中は、共に良くまとまったチームだった。男子チームは、地道に効率の良い攻守で無駄のない動きに終始し、最後の最後までマイペースを崩さなかった。それらが優勝の原動力となったと思う。惜しくも準優勝に止まった東海代表、汐路中は中学生離れした技術を持ち、特に準々決勝は見事に逆転勝利を収め、準決勝でも大差をつけ、優勝なるかと決勝戦に夢を繋いだが、決勝戦では、前半、芦城の一気の攻めに大きく水をあけられ、後半の猛追も及ばず、2点差で涙を飲んだ。多彩な攻撃力を持った素晴しいチームだった。また、準々優勝で敗れはしたが、精密機械のごとく動き回る非常に良く訓練された埼玉の蓮田中、さらに地元の長身のエース大江を持つ氷見西部中、熊本の松橋中など、個性的な優れたチームが多かった。

一方女子は、石川県の芦城中と地元の小杉中の決勝戦となったが、芦城のじっくりと試合展開を読み、チャンス到来を待つ落ちついた試合運びは、高校界の女王、小松女子高校を思わせた。前半の小杉のリードをじりじりと追い上げ、インターセプトと巧みなポストプレーで突き放したのは流石だった。

尚、小杉の前半の庄司、石田両選手の活躍も目立った。さらに熊本の名門、小川中、愛知の豊国中など多くのチームがあり、将来に夢を乗せるレベルの高い大会であった。

この大会を運営した役員の手際の良い采配は、充実した大会をつくりあげた。

その裏には、大会役員全体チームワークがあったからこそである。雨天の際の切りかえ等、その他、全く支障のない流れの良さは、如何に大きな大会運営を経験したとはいえ、なかなかうまくいくものではないが、その一糸乱れずの協力態勢は、大会委員長、審判長をはじめとする役員の皆様の懸命な努力にほかならない。

このように大会を演出する陰の役員、そして試合をする選手達、それらが明日の日本のハンドボール界を大きく前進させることに繋がるもので、1人や2人の力で支えているのでは勿論ない。ここらを原点としてもう一度ハンドボール界も考え直す必要があるのではないか。

大会運営もさることながら、中学の先生方の指導力もまた立派である。どうかこのように選手作りに全力を尽し、ハンドボールの楽しさ、魅力を植え付ける最初の指導者の中から、ナショナルのコーチ陣にも加えたらどうだろうか。そして逸早く、中学から実業団、いや全日本までの一貫教育をして欲しいと願うものである。



女子の決勝戦

男子

▽1回戦

松橋中（熊本）12（3－5，9－3）8 上中（奈良）

○…前半、両チームとも動きが回くなかなかシュートチャンスがないままであったが、上中のフリースローからの2得点の先行から次第に両チームともパスが回り、シュートチャンスも生まれて5対3と上中の2点リードで、前半を終わる。

後半に入って足が止まり動きの単調となった上中に対し、松橋中はよく走り着々と得点を重ね逆転した。（福元）

氷見北部中（富山）18（10－5，8－6）11 郡山第一中（福島）

○…北部中は立ち上がり動きがよく、郡山のディフェンスを巧みに破り、⑧のシュートをきっかけに得点を重ねていった。一方、郡山はなかなか北部のディフェンスを崩すことが出来ず、得点することが出来ない。しかし、前半終了前のペナルティーを機に動きがもどり得点をあげ始めた。

後半、両チームともに着実に得点を重ねたが、前半の立ち上がりの差が勝敗を分けた。（杉林）

蓮田中（埼玉）22（16－3，6－4）7 江東中（島根）

○…蓮田は、試合開始から藤谷黒須、栗原を中心にポストプレーミドルシュート、そして速攻と多彩な攻撃で点数を重ね一方的な勝利となった。しかし"江東の選手個人の力は得点には巧く結びつかなかったが、今後期待するものがある。（田嶋）

汐路中（愛知）27（15－2，12－6）8 釧路北中（北海道）

○…汐路中のディフェンスの早いつめとGKの好守が目立った。釧路北中はボールを回すが、カットインが出来ず、スタンディングやハーフロングシュートを打つが単発のため汐路中の速攻を許した。（横嶋）

芦城中（石川）23（14－6，9－6）12 小禄中（沖縄）

○…前半途中まで両チームとも固さが見られたが5対1と芦城がリード。芦城のペナルティーを小祿のGKが好守して5対3と追い上げたが、結局9対6と芦城リードで前半終了。

後半は、初めから芦城が出足の速い速攻で連続得点し、一方的なゲーム展開となった。（伊藤）

甘楽第三中（群馬）15（8－7，7－7）14 桑根中（山口）

○…両チームともディフェンスが堅く、大変好感の持てるチームである。一方、オフェンス面でも桑名の速攻に対し甘楽第三は③を中心に巧みにボールを回して得点に結びつけ、前半7対7と全く互角であった。

後半立ち上がり桑名が速攻で先行したが、すかさず甘楽も逆転、互いに点を取り合うシーソーゲームとなる。甘楽のリードを桑名が追い残り1分で遂に同点に追い着いた。しかし終了15秒前、甘楽⑤がサイドからシュート、勝利を得た。（小谷内）

氷見西部中（富山）24（14－2，10－5）7 那加中（岐阜）

○…先取点は那加で試合が開始され、前半10分までに氷見西部中はすばやいカットイン・コンビネーションプレーで確実に加点、6点を連続ゲットし、ゲームを手中にする。

その後、那加の散発シュートも得点にならず、前半氷見西部中は10対5とリード、後半も氷見の一方的なゲーム展開で終了。（村井）

高島中（滋賀）21（10－7，11－11）18 柴雲中（香川）

○…柴雲③の活躍で1点を争うシーソーゲームで前半同点。後半パスワークに勝る高島が着実に加点し、勝利をものにした。（杉林）

▽準々決勝

松橋中 13（7－5，6－6）11 氷見北部中

○…開始早々、松橋が④のジャンプステップその他スカイプレー、ポスト等多彩な攻撃で得点を重ねゲームの主導権を握る。一方、氷見北部は固さが見られ、松橋のディフェンスに思うような攻撃が出来ず、10分経過で5対1、その後氷見北部の攻撃もリズムにのり互角の戦いを展開し、7対5で前半終了。

後半開始、松橋の⑩、②の連続ゲットし勝利を不動にしたかに見えたが、氷見北部④、⑦の活躍により1点差まで追い上げたが、力及ばず松橋が逃げ切った。（越田）

汐路中 17（12－5，5－8）13 蓮田中

○…前半、蓮田はすばやい動きからのパスワークとポスト攻撃で得点を重ねたが、後半は汐路の堅いディフェンスとミドルシュート、サイド攻撃で着々と得点を重ね逆転勝ちした。（杉林）

芦城中 25（16－5，9－2）7 甘楽第三中

○…甘楽第三中が秋山のミドルシュートで先行したが、シュート力に勝る芦城中は④を中心に速攻、フェイントと着々と得点を重ね大量リードで前半を終わる。後半に入っても芦城中はつめの早い堅いディフェンスからの速攻及びフェイント攻撃により得点差を広げ大勝した。（福元）

氷見西部中 14（6－3，8－7）10 高島中

○…両チームとも足のよく動くチームであるが、特に西部中はすばやいカットインプレーでボールを継いだあと長身の大江が上から打つロングシュートが光った。高島中も⑤がロングシュートを再三打つのだが得点出来ず、前半6対3で氷見中リード。後半の途中、西部中のディフェンスミスから高島中が10対11と1点差まで追い上げたがそれまでだった。（伊藤）

▽準決勝

汐路中 22（15－5，7－7）12 松橋中

○…両チーム、すばやい動きと

パスワークからのカットイン、ミドルシュートで前半は同点で終了した。

しかし後半になって走力と高さで優位に立つ汐路が、サイドシュート、ミドルシュートで確実に得点を重ね逃げ切った。（広田）

【汐路】	得		【松橋】	得
岩田	0	GK	林田	0
伊藤	0	GK	築島	0
疋田	4	FP	生山	3
大沢	4	FP	池田	0
大橋	3	FP	田中	8
鯨井	5	FP	山口	1
久保田	3	FP	柏木	0
多田	3	FP	岡本	0
堀田	0	FP	内山	0
佐藤	0	FP	田中	0
杉氷	0	FP	稲村	0
平松	0	FP	大野	0
22	(0)	PT	(0)	12

（審・山口 徳前）


男子の熱戦

芦城中 15（7－7／8－6）13 氷見西部中

【氷見】	得		【芦城】	得
前田	0	GK	釜田	0
中原	0	GK	河南	0
大江	3	FP	泉	1
羽毛	4	FP	吉田	2
岡谷内	0	FP	古谷	4
橋本	0	FP	園下	2
坂下	1	FP	堀戸	2
布子	0	FP	藤本	4
川西	0	FP	八田	0
斉勝	0	FP	竹内	0
宮木	2	FP	中村	0
千場	3	FP	山田	0
13	(0)	PT	(0)	15

（審・越田 東川）

○…前半、両チームともにローリングからの多彩な攻撃でシーソーゲームをくり広げ氷見西部は10分過ぎ2点リードより差を広げる。チャンスに芦城GKのファインプレーにより阻まれ追撃を許し7対7の同点で終わる。

後半、芦城は連続得点によりリード、その後10分過ぎより氷見西部も連続得点により追い上げたが芦城GKの再三のファインプレーに阻まれる。非常にレベルの高いゲームであった。（旅）

▽決勝

芦城中 16（9－4／7－10）14 汐路中

○…両チームともに決勝戦にふさわしい好プレーを攻守にわたって展開した。

【芦城】	得		【汐路】	得
釜田	0	GK	岩田	0
河南	0	GK	伊藤	0
泉	2	FP	疋田	3
吉田	3	FP	大沢	2
古谷	1	FP	大橋	1
園下	0	FP	鯨井	2
堀戸	4	FP	久保田	5
藤本	4	FP	多田	1
八田	2	FP	長谷川	0
竹内	0	FP	堀田	0
中村	0	FP	有本	0
山田	0	FP	平松	0
16	(0)	PT	(0)	14

（審・中山 田嶋）


決勝戦

前半、芦城は主将を中心として持ち前のパスワークとGKからの速攻を生かし着実に得点に結びつけた。一方、汐路は③を中心とするパスワークで攻めるも芦城GKの好守に阻まれるケースが多かった。

後半、芦城、汐路ともに堅い守りと足を生かしたオフェンスを見せ、シーソーゲームを展開し試合が盛り上がった。芦城は前半のリードをものにし勝利を得たが、両チーム攻守にわたるすばらしいプレーは目を見はるものがある。（小谷内）

女子

▽1回戦

小川中 20（7－2／13－3）5 日枝中
（熊本）（岐阜）

○…第一試合なので双方とも固さが目だった。2対2の時、小川中の②が長身からくり出すロングシュートや③のミドルシュート等で点差をあけた。小川中は、その後も速攻や小技などで着々と得点を重ねた。日枝中も速攻等でよく走ったが、小川中の厚いディフェンスを破れなかった。（浜野）

中野中 11（6－5／5－4）9 大淀中
（埼玉）（大阪）

○…試合開始直後、両チームシュートチャンスがつかめなかったが、大淀3分に④がシュートを決め、勢いに乗るかに見えたが、中野6分に速攻、10分、12分にPTを決める。その後互格の戦いをする。後半に入って中野PTで加点。大淀速攻を決める。その後、中野16分に速攻、19分にロングシュートを決め勝負を決めた。両チームのGK、大淀⑤のプレーが光っていた。（九田）

氷見北部中 22（11－4／11－3）7 鳥取中
（富山）（北海道）

○…前半15分まで、鳥取中のロングシュート、氷見北部中のサイド、ポストシュートで1点を争うシーソーゲームとなったが、氷見北部中の速攻が出だし、6点を連取し前半を終え、後半もそのままの勢いで善戦の鳥取中をよせつけなかった。（阿部）

芦城中 31（20－2／11－4）6 落合
（石川）（岡山）

○…相手のミスより速攻を確実にものにした芦城中15点連取、ディフェンスのコンビもよく落合中なかなか攻め切れず前半を終了。勝敗の興味うすれた後半、両

フットワークはフォーメーションから生まれます。
だれが駆けても、

シティは、スポーツマン。

ライヴ・ビークル「シティ」

HONDA®



シティのいちばんライヴな遊び友だちです。
トランクをガレージにしてしまった、
モトコンポは、トラバイ（トランクバイク）。

モトコンポ



チーム共選手の出入りがひんぱんで内容のうすいゲームであった。（加藤）

塩谷中 13（7－4／6－4）8 光洋中
（兵庫）　（香川）

○…開会式直後の試合のためか、両チームとも動きが今一つ鈍く、日ごろの軽快な走り、パスワークが見られず、ミスの多い内容だった。塩谷チームは速攻、ポストプレーで攻撃し、光洋チームの雑なディフェンスに助けられ、前半5本のペナルティーをすべて得点とし7対4で終了。後半も一進一退を繰り返しながらも1点差まで追い上げられながらも、前半のリードを守り勝利を得た。（越田）

小杉中 23（11－2／12－5）7 泉中
（富山）　（福島）

○…立ち上がり、両チームとも固さが見られたが、小杉は④、⑤のロングシュートを中心に徐々に点差を広げた。一方、泉はゴール前でのスピードに欠け、フリースロー等で対抗したが、善戦及ばず敗退した。（山口）

豊国中 15（9－4／6－4）8 鏡原中
（愛知）　（沖縄）

○…前半、豊国は速攻、③、④のジャンプシュート等で着々と加点。一方、鏡原は②、④の単発シュートだけで9対4で豊国リードで終了。後半も同じペースで進行し、ダブルスコアで終了。鏡原の最後までゲームを捨てない試合態度には好感が持たれた。（越田）

岩崎中 10（6－4／4－4）8 住吉中
（神奈川）　（山口）

○…前後半とも互角の戦いであったが、ミドルシュートの住吉に対して、ポストプレーでよく足が動く岩崎が確実に得点に結びつけ、わずかの差で岩崎が勝利をものにした。（徳前）

▽準々決勝

小川中 15（10－6／5－8）14 中野中

○…前半、小川多彩な攻撃で着実に加点するが、ペナルティーを5本与えるなど、ディフェンス面にやや難点が見れたら。一方、中野も相手のすきをつきミドルシュートで反撃。後半ポストカットインプレーで同点に追いつく。残り1分、小川③のロングシュートで辛うじて逃げ切る。（加藤）

芦城中 18（10－4／8－4）8 氷見北部中

○…前半はともに固さがめだち反則の多い試合展開であったが、前半終了5分前ぐらいより芦城の攻撃のリズムが出始め、特に後半連続6得点で氷見北部の動きを止め、確実に得点を重ねた。中でも得点の半分を入れた④の活躍が光っていた。氷見北部は芦城の固い守備体型をくずせず苦戦した。（寺崎）

小杉中 10（6－4／4－2）6 塩屋中

○…前半の始まり、塩屋中は③、⑤のフリースローで先行したが、小杉中は早いパスワークからの切り込みなどでペナルティーを取り6対4でリード。後半、塩屋は⑤のフリースローなどで1点差につめたが、小杉中は⑪のミドルシュートや④の巧みなシュートなどで逃げ切った。しかし塩屋中のGKの好守が光った。（田嶋）

豊国中 9（5－7／4－1）8 岩崎中

○…岩崎中・土谷のロング、豊国中・三浦のミドルで17分までシーソーゲーム。18分、19分と岩崎中の連続得点で初のリード。

後半、豊国中は一線防御でパスカット、シュートミスなどを4連続速攻につなげて逆転、岩崎中の得点を1点に押えて逃げ切る。（旅）

▽準決勝

芦城中 13（8－6／5－4）10 小川中

得	【小川】		【芦城】	得
0	本戸	GK	川北	0
0	松村	GK	串	0
2	米原	FP（審・中山 田嶋）	野田	0
5	高橋		宮多	3
0	徳永		池田久	6
1	沢野		奥村	2
1	宮下		桜井	1
1	鉄井		富永	0
0	生田		木村	1
0	谷口		東野	0
0	木戸口		速水	0
			池田由	0
10				13

○…両チームともきびきびした動きを見せ、1点を争う好ゲームとなった。前半は終了まぎわに芦城が速攻を決め8対6とリードして終了。

後半も一進一退のゲームが続き小川もよく健闘したが、芦城が前半のリードを守り切って勝利を得た。特に両チームGKの堅守は見事であった。（寺崎）

小杉中 8（6－4／2－3）7 豊国中

得	【小杉】		【豊国】	得
0	北本	GK	蒔田	0
0	黒田	GK	神田	0
0	明石	FP（審・村井 伊藤）	木場	4
0	秋原		三浦優	1
4	石田		三浦菜	0
3	庄司		中山	0
0	能登		伊藤	0
0	涌波		大原	2
0	山田		富広里	0
0	八島		山下	0
1	林		山田	0
0	四方		富広晃	0
8				7

○…小杉中が⑤のカットインで先取点をあげゲームを優位に進める。しかし、豊国中も③の活躍等で反撃して6対4。

後半開始早々、小杉中④のジャンプシュートで3点差としたが、すぐに豊国中が猛反撃、⑦、②、②と連続ゲットして一気に同点に追い着いた。しかし、ここで小杉中ペナルティーを得て8対7と再びリードして守りきった。（越田）

▽決勝

芦城中 12（3－4／9－5）9 小杉中

得	【芦城】		【小杉】	得
0	川北	GK	北本	0
0	串	GK	黒田	0
2	野田	FP（審・越田 東川）	明石	0
1	宮多		秋原	0
7	池田久		石田	2
1	奥村		庄司	5
1	桜井		能登	0
0	富永		涌波	2
0	木村		山田	0
0	東野		八島	0
0	速水		林	0
0	池田由		四方	0
12				9

○…開始早々、小杉はポストプレーからペナルティーを誘い、先制点をあげる。芦城に固さが見られ、パスミスなどから小杉に速攻を許し、前半は小杉の1点リード。後半追いつ追われつの好ゲームを展開するが、10分過ぎから小杉の足が止まり、芦城のカットインやポストプレーを許した。小杉のペナルティーを再三止めた芦城GKの好守が光っていた（横嶋）



ニューカレドニア遠征に同行しての所感

全日本学連会長　内海　倫

さわやかな若者たち

学生連盟の会長になってはじめて外国遠征に同行した。ニューカレドニアのチームとの対戦である。

結果は二戦して二勝したのだから、まことに上実績と言ってよいであろう。どう守り、どのように攻めて戦うかなどということは私の語るところではないし、語る能力もない。監督やコーチの諸君が詳細報告することであろう。

選手諸君と一緒に行動したことから私はいろいろな所見を得た。また、示唆も受けたし、教えられたことも決して少くなかった。その辺のことを語ろう。

〃この頃の若い者は〃というのは一時、年輩の人からよく言われたことばである。しかし、こんど私はその若者たちと一緒に生活し、一緒に行動をして、逆に〃この頃の熟年者たちは〃と言われるのではないかと思うことが少くなかった。そう思うほど、私の接した若者たちは、私にとって爽やかな存在だった。

かねてから、私はスポーツのアマチュアリズムを主張している。そして、そのアマチュアリズムは、選手一人一人の心構えとあり方によって維持もされるし、またこわされるものと思っている。

多くの人が、ここ2、3年来の高校野球は昔のような高校生らしい試合が少くなったと言っている。

恐らくその理由は、〃高校生らしい純真で、そして、純粋な試合でないからだ〃と思われる。そうなっている奥にはプロの野球の存在がある。プロの野球そのものをどうこういう訳ではないが、本来アマチュアースポーツのプレヤーそのものでなければならぬ高校生が、プロスポーツの真似るべきでないところを真似ようとし、また、少数であるかも知れないが自からの進むべき道をプロ野球に求めているため、自からをプロ向きに演出している場合もあるように思う。これらについては、学校当局にも、またこれを応援する地元の人たちにも責任があるかも知れない。ともあれ、こういうことのため、かつて私たちが感激して観戦し、心を洗われるような思いをした感慨は全くもち得なくなったのである。スポーツのプロフェッショナル化は避け難い傾向であるとは思うけれど、少くとも学生生徒である限りは、アマチュアスポーツの精神を堅く持して欲しいと私は思っている。

ところで、ハンドボールについては、幸か不幸かプロ化の動きは全くないように思われる。それ故であろうか、私が同行した学生プレーヤーたちは、かつて私たちが運動部の選手であった頃と全く同じような気持をもっているように思われた。そのことが、スポーツの種類が全く異なり、また、そのスポーツを行った時代が大きく隔っているにもかかわらず、そのような境を越えて私の心の中に無い学生選手たちに共感を覚えさせる気持を生じさせているのである。

ニューカレドニア遠征の一週間は、そういう点で私の青春の頃の感懐を想起させ、かつて汗を流しつつ合宿した数10年前の若き日の〃稽古〃の苦しみを想い出させたのである。

私は、監督、コーチ、選手と共に同じ宿に泊まり、同じ時間に起き、同じ食堂で机をならべて同じ食事をした。そして、私自身出来る限りこの若者たちと行動を共にするように努めたつもりである。彼らが練習をするときは同じ場所で見学をし、彼らが試合するときはその試合だけでなく、休憩したり、コーチ

が作戦を与えている場にも臨んで、じかにその生態に接するようにつとめた。

実感したスポーツ外交

本当のところは、私はこういう機会にもっと積極的に一人一人の学生たちに接触して、その心情を知り、その生きた生態を知りたいと思ったけれど、遺憾せん、彼ら自身がなかなか近づいてくれなかった。当然のことながら、〝敬遠した〟のであろう。私はその分を監督やコーチに求めた。私にとっては、とりわけコーチ達は、学生とそれ程変らぬ若者に見えるのである。彼らにとっては、至極迷惑だったかも知れないが、私にとってはなかなか得られない若者たちとの接触の機会なので、食事のとき、あるいは、休養中の一時、さらに、夜、ホテルの小さなバーの一角でいろいろと話をした。全く楽しい、しかも私の日常では得られない若者を知る機会であった。そして、私の心の中に〝将来を托する若者〟えの期待を大きくふくらませた。

私は、こんどの学生ハンドボールの選手たちと一週間をすごしたことによって、少なからず、今日の若者に対する認識を深め、また〝見直し〟た点も少くない。

スポーツマンは、礼義正しいことが私の学生時代にも強く要求されていた。新聞やテレビによって伝えられる今の若者たちは、まるで礼義など解せざるもののようなのだが、こんどの選手たちの行動に接していると、身についたポライトネスがあるように私には思われた。彼らが相互に話し合い、監督やコーチに接している極く自然な姿の中で私はそれを見ることができた。まことにさわやかであるそれが彼らの仲間との共同生活の中にたくまざる秩序を作り出していたように見えた。

国際試合に臨む選手は、そのスポーツの種類を問わず、また国際試合の形式が何であれ、何れの場合でもその国の国民を代表するものである。

他の国の人々は、その選手の試合ぶり、行動ぶりを見てその国の人々を判断するであろう。その意味から言えば、彼ら若者は、はからずも外交使節としての機能を果しているのである。そのよしあしは、いろいろな形でわが国民の評価につながって来る。

こんどの選手たちは、その任務を十分に果したと私は思っている。彼ら自身はどれ程の意識をもっていたかは知らないけれど、彼らの接したニューカレドニアの多勢の人たちは、〝好ましい日本人〟を知ったと思うのである。私は、抽象的にはスポーツ外交とかスポーツ使節とかということを聞いていた。

しかし、今回はじめてそれを実感した。多くのスポーツ専門家諸君は、私の文所見を今更のことと思うかも知れない。しかし、私が〝新鮮な感覚〟でそれを感得したということをよく考えて欲しいのである。という意味は、今までも、またこれからも若者の外交機能を果す意義は大きいものと思うからである。

私の今度の遠征地は、いささか型破りのものかも知れない。敢えて、そのことを意識しつつささやかな所見を述べた。



関東学生チーム・ニューカレドニア遠征

関東学生選抜チーム カレドニア選抜に2連勝

関東学生男子選抜チームは、8月25日から9月1日までニューカレドニアに遠征した。ニューカレドニア選抜チームと対戦し、2連勝するなど大いなる成果を挙げた。また試合のない日は、カレドニアチームの役員や選手との交歓会や、現地の日本人会による歓迎会などが催され、両国の親善にも大いに役立つことができた。

▽第1戦

関東学生選抜 29（14－13, 15－10）23 ニューカレドニア

【関東学生】
GK 藤川（国士館）、佐藤（立教）
FP 中島（筑波）、菅沼（日大）、下戸成（中央）、長井（日大）、黒沢（国士）、栗山（国士）、安沢（中央）、秋田（慶応）、泊井原（明星）、舘野（立教）、宮沢（日大）
審（浜田（東海大））

▽試合はカレドニアチーム2番メイヤー（元ナショナル）の豪快なロングシュートで始まった。5分程は両チームともミスを繰り返して、得点が少なかった。

しかしその後日本チームはキャプテン中島や菅沼などが連続7ゴールして、15分過ぎには8対3とリードした。

その後も日本チームは速攻、ロング・ポストから得点を重ね、20分過ぎには13－4とリードして、ワンサイドゲームになるかと思われた。

しかしカレドニアチームは疲れの見えた日本チームに対し、反撃して前半を10対15とした。

後半に入るとカレドニアチームは大型選手メイヤーやノワレを中心にロングシュートを多用して、反撃に移った。しかし日本はゴールキーパー佐藤が好守を見せて、カレドニアのロングシュートをよくくい止めた。後半17分には22対16とした。

その後は一進一退のゲーム展開が続いたが、日本チームは前半の得点差を守り、29対23で第一戦を快勝した。（平岡）

▽第2戦

関東学生選抜 28（15－13, 13－12）25 ニューカレドニア

【日本】
GK 藤川、佐藤
FP 中島、菅沼、下戸成、長井、黒沢、栗山、安沢、秋田、油井原、舘野、宮沢
審（浜田）

▽第1戦でロングシュートに悩まされた日本チームは、一―五ディフェンスで対戦した。その日本に対してカレドニアチームはフリースローからのロングシュートで対応した。

日本チームは立ち上りで、ディフェンスの乱れから2対4とリードされたが、宮崎の速攻が良い所で決まり、12分過ぎには4連続得点して6対4と逆転した。その後は日本がスピードでカレドニアの防禦をくずせば、カレドニアは身長、体重差を利したカットインプレーで4連続PTを得るなどして激しく日本チームにくいついた。

その結果、前半は日本チームが13対12で、かろうじてリードを守った。

後半に入ってもカレドニアチームの追撃はゆるまず、残り5分まで日本が1点リードするとカレドニアが同点に追いつくゲーム運びとなり緊迫した試合となった。

しかし残り5分でキャプテン中島が最後の頑張りを見せて、点差を広げた。試合終了2分前の所で右サイドからシュートをねらった舘野が、カレドニア選手とからみ合い、肘関接脱臼というアクシデントに見まわれてしまったが、すばらしい試合であった。（平岡）

〈後記〉

ニューカレドニアと日本協会との交流は、昭和54年以来毎年続けられている。第1回目の遠征はフランス協会の要請により、全日本学生選抜チームとフランスナショナルチームが対戦した。その後立石電気、ビクター、関東学生選抜チームなどが遠征をして、カレドニアチームとの交流を深めてきた。

カレドニア協会は、日本チームの受け入れに全力をつくしており、その努力に日本からの遠征疲れもふきとぶ思いであった。

来年ニューカレドニアチームは日本への遠征を計画しているようであった。もし来日の希望があれば、日本協会としても是非、来日実現に努力していただきたいし、我々遠征メンバーも努力したいと痛感した。（平岡）



大きな成果あげたカレドニアとの熱戦

海外研修を終えて

国際的に乗り遅れない方策が急務

樫塚正一

「序論」

アジア諸国の中で逸早くハンドボールを取り入れ、アジアの先進国の名をほしいままに発展を続け今日まで来た日本ハンドボール界であるが、近年韓国の台頭を見るに至って女子ハンドボール界は、モントリオールオリンピックを最後に世界の舞台に参加するチャンスを失い、男子も韓国にアジアの先進国としての位置を脅かされている現状のなか、3月、西ドイツで開催された世界選手権14位の成績で帰国を余儀なくされ、7位～8位が可能と希望をつないでいた関係者諸氏の期待に不安を抱かせる原因にもなった。選手はもとより、強化スタッフ関係諸氏の努力にもかかわらず、国際大会での後退を見、韓国が対戦ごとに力をつけて日本の地位を脅かす現状のなかで、日本ハンドボール界は原点に帰り、多くのテーマに取り組むと同時に問題を解決しなければならない。女子は再びアジアの地位を奪回のため、男子は韓国に奪われることがないためには、現在まで積み重ねた努力の上にさらに国際感覚を身に付け、技術・テクニックでは何を求めるかの検討と研究課題に強化スタッフをはじめ協会はもとより、ハンドボール愛好者に至るまでの総ての力を注ぎ、ハンドボール関係者が求めている姿に帰らなければならない。

Deutsche Handball Bund の動向

西ドイツスポーツ界と日本スポーツ界の最も異なる点は、学校におけるクラブ活動・企業における実業団という会社単位のクラブが中心的存在を示す日本に比べ、西ドイツスポーツ界の特徴はすでに多くの関係諸氏の承知する、地域社会のクラブ組織で活動が行われている現状であろう、クラブ組織の現状は、競技スポーツ・レクリエーションスポーツ・子供の育成にポイントが置かれる健康スポーツの三つに大別することが出来る。

運営は各クラブの方針によって行われ、競技スポーツが中心のクラブもあればレクリエーション・健康スポーツを中心に運営されるクラブもある。西ドイツを大きくnord リーグ・süd リーグに分けた Bundesliga を最高とし、Kreisliga Jugend A・B・C・D・E までの縦系列の組織を持ち、クラブによっては10～12チームの各層によるチームを所有するクラブもあり、地域住民を対象とするクラブは、それぞれの地域にスポーツが恵まれた環境で行える施設の完備がなされ、運営から経済的な資金確保・施設・選手育成・トレーナー任命まで、すべてにおいてクラブの方針である実態を知っておきたい。

Bundesliga を含む総ての試合日程は、D.H.B Landes 協会の指示によるが、D・H・Bの特徴はクラブトレーナーが持つタレント選手の発掘方法である。試合や練習が行われる過程のなかで、トレーナーは地区・州・D・H・B 協会にタレント選手の技術面・社会的態度・精神面を含む報告書の提出義務があり、州選抜・ナショナル選手の発掘を行おうとする協会は選考を行うのに必要な条件を兼ね備えた書類が常に準備され、必要に応じて現場の再確認と発掘する機会を得ることが出来る。しかし個人主義と自己主張の強い習慣と民族性を持つ国であり、選手も自分の環境に合ったクラブの活動を求める傾向が非常に強く、所属するクラブの体制、および指導方法が自分に適さない場合は、いとも簡単に所属するクラブを移籍することもさしてめずらしい問題ではない。

移籍に関する問題は、日本のアマチュアスポーツ界を想像することは出来ず、トレーナーも選手もプロの実態に匹敵する。Jugend B・（14～16歳）になれば選手を求めて金銭トレードによるチーム強化を図ろうとする傾向が伺われ、対象となる選手が未青年である場合には、トレード金はクラブに渡され本人が収受することはない。特に Bundesliga を持つチームにおいての成績不振による弱体化は、他チームから選手のトレードを行うという補強が一般的な方法であり、日本の現状である選手の育成は強化策に重要な要素であるとは認めない傾向に変わりつつある。

この方法はトレーナーにおいても同様で、成績不振によるシーズン途中のトレーナー解任も行われる現状を知る。西ドイツ・ナショナル・トレーナー、vlado・ステンツェルは前回世界選手権で西ドイツを優勝に導いたにもかかわらず、今回成績不振を理由に解任された。ナショナルトレーナーを中心に、Bundesliga・Oberliga 等の西ドイツのクラブ組織がこの現状を表わすことは、アマチュアスポーツであるにもかかわらず金銭トレードによって、トレーナーや選手を獲得するということが、一般的な傾向であると考えたい。

世界のなかの日本

ハンドボール競技は、ヨーロッパで生まれ、現在なおもヨーロッパを中心に発展を続ける球技である。

ヨーロッパから遠いアジアの日本で歩み始めて約40年の月日を覚えるが、ヨーロッパ諸国から見る日本は現在も遠い異国であり東洋の未知なる国にすぎない。距離的にはもちろん、技術導入、発展の変化、傾向、組織関係に至るまで、総てにおいて非常に遠い存在に思える。遠くにあるがために情報収集の速さと正確さを欠き、日本は世界の仲間入りをするための欠乏を余儀なくされてている所がある。

ハンドボール関係者が考えているようにヨーロッパ諸国の人々はハンドボール選手、関係者・一般人を含めて特定の人でなければ、日本ハンドボール界の現状も活動状況も知る情報を持たないのが一般常識の状態である。それゆえに日本チームが国際大会、親善試合等に顔を見せることは、未知なハンドボールを見るが如くに日本チームのプレーと展開に興味を示すヨッーロパ諸国間の移動と日本が遠征を行うのには大きな異なりがあり、ヨーロッパ諸国の人達の国際親善カップ戦には、海外遠征をする感覚はなく他県に移動するのと同感覚と気持ちで移動を行い、ヨーロッパ全体が一つの国と考えられる所があり、対戦には新しいものを見る感覚もなく新しい情報とてない。

チームのレベルを見るための調整と勝つための展開と戦術に興味を示す目的意識を持ち、対戦前にはすでに多くの情報分析を終えているのが常識であり、日本チームに示す味とは全く異った感がある。

日本チームとの対戦には、新しいハンドボールを発見した感覚を持って、動作、戦術、展開に興味と期待をスタッフも観衆も寄せていることは事実である。日本チームが試合に熱狂的な応援を受けることは、全く未知ハンドボールを見た興味と期待、さらに遠い国から御苦労様といった心を含む感傷的な気持ちも多く、日本チームの素晴らしいプレーや展開に、おやっといった気持ちと、仲々やるなという感覚を含む声援であることを知らなければならない。過去に東洋の未知なる国は日本チームだけであったが近年男子においては韓国、中国が日本以上にヨーロッパに足を運び、ヨーロッパ諸国の人々は、韓国にも中国にも興味を持つ人々が多く増えつつある事実を知ることも大切なことと思う。

遠く離れた日本が、ヨーロッパ諸国の現状と傾向を知る手段とは、年に何度か行う遠征の経験がヨーロッパ諸国の傾向と戦術展開を知る最も大きい要因となっており、選手自身も遠征の体験をした後にヨーロッパハンドボールのイメージを持つ。ヨーロッパ遠征の中で日本のレベルと比較し、ヨーロッパ諸国の現状を知るわけだが、遠征には多くの可能性と共に諸条件が含まれていることも認識しなければならない。ヨーロッパ遠征においてヨーロッパのレベルや同時に日本のレベルを計りヨーロッパの傾向を知るには、遠征のシーズンと相手を選ぶことが遠征の効果と意義に大きいプラスにもマイナスにもなる条件を含んでいる。対戦チームが戦法に用いる技術とレベルが、日本が求めているものであるか否か、また対戦チームの戦力が、日本が求めている評価として満足出来るものであるか否かが、大きい重点と要素になろう。

親善試合にはすでに多くの関係諸氏の知る所である。対戦する総てのチームが日本に対し全力で戦うことも少なく、チームの調整であったり、当日に選手を集めて試合を行うことも、さしてめずらしいことでもなく、日本チームが望むレベルと一致することは少ない現状も多々ある。選手権を除く親善試合は、協会からの紹介を通し各地区ハンドボール協会がクラブチームとのコンタクトを図り、クラブは対戦することによって、クラブの練習と同時に観客動員から得られる収益が対戦を承諾する条件となる。

年間に数多くの国と対戦する機会を持つヨーロッパ諸国の選手にとって、親善試合とは絶対的なものではなく、強いチームと親善の感が強く、地方チームとハンドボールが地域にとって盛んな所ほど

樫塚正一氏プロフィール

昭和19年、香川県出身。日本体育大学を出て大阪で教職につき、大阪イーグルスの主力アタッカーとして活躍。

昭和47年より武庫川女子大学に奉職。

昭和56年9月より1年間、日本体育協会より留学コーチとして西ドイツ・ケルン体育大学に学ぶ。

現在、武庫川女子大学助教授、全日本女子チームコーチ、日本協会強化コーチ。38歳。

勝ちたい意欲を持つ傾向がある。また対戦するシーズンによっても条件が異なり、日本のシーズンとヨーロッパのシーズンの検討が必要となる。

各国が開催するカップ戦に日本が参加することは、日本ハンドボール界の現状の中で、ヨーロッパ諸国の戦術と展開を知るにも分析するにも、また日本のレベルを評価するにも最も効果的な手段でもあり、場所でもあるが、このカップ戦の戦績と効果が、本来のヨーロッパの諸国のレベルと考えたり、日本の実力と考えるには安易に判断すべきことではないと考えたい。ヨーロッパ諸国のシーズンは9ケ月間続く長い一シーズン制であり、各国がシーズン途中に主催するカップ戦を組む目的と条件は、主催国のナショナルチームの戦術を完成する途中の調整であったり、参加国の戦術と展開、技術の情報収集と分析が目的であることも多く、国が主催するカップ戦とはいえ、勝つことが最も重視される選手権とは異なり、練習過程の調整と情報収集を目的とする場合が多い。

日本はこのカップ戦の目的と意義を深く理解しなければならず、この理解の過ちを侵すことは、日本のレベル評価を判断するためには、大きいマイナス条件をもたらす可能性を含むと同時に、期待と現実の一致を見ることが出来ないことにもなりかねない。

歴史もさることながら地理的条件に加え、情報の豊かさをもたない条件のなかで、日本がヨーロッパ諸国と世界の仲間入りを果たすためには、多くの諸条件を満たす努力を惜しむことなく続けなければならない必然性を持たされている。

強化のための国際感覚

国際試合を行うために必要な条件と要素を選手に求めるならば、経験・分析・認識の三点を考えねばならず、選手が活動する実態から考えて見るならば第一に経験であろう。

昨今ハンドボール界も他球技と同様、海外遠征を経験する年令層が若い時代と変わりつつあるが、ヨーロッパ諸国を中心に発展されるハンドボール競技には素晴らしい傾向と考えたい。過去日本ハンドボール界は、全日本ナショナルチームに選ばれた者だけが親善試合、あるいは国際大会に参加するための海外遠征を経験する程度であり、ナショナル選手の中にも初めて海外遠征を経験する選手も少なくない現状であって、ハンドボール競技がオリンピック種目に加わって以来、日本ハンドボールチームの海外遠征は年をおうごとに多くなり、またナショナルチーム以外に、男子学生世界選手権、ジュニア世界選手権、加えて関東学生男女による西ドイツ単独遠征を初め、1982年関西学生男女の遠征と、大阪高校選抜の高校生で、初めてのヨーロッパ遠征の実現を見るに至っている。



世界選手権日本×ポーランド

遠征を行うことにより、数多くのハンドボール選手が、世界のレベルと技術評価を自らの体験を通して知るに至った状態は、日本のレベルの新しい評価が出来ると共に、将来この選手達がナショナルチームの一員となった時には、多くの現実のなかから多くの可能性をひき出す条件に変わることに、大きい期待と意欲を持つことに変わる。

高校生の海外遠征は過去に例がなくはないが、この度大阪高校選抜がヨーロッパまで足を運び、選手が体験を通して経験したハンドボールは、ハンドボール界に大きい変化をもたらすことになるであろうと期待する。

このように高校時代に数多くの選手が国際感覚を身につけ、実業団、大学に進んでなおもハンドボールを続ける希望を持ち、日本代表選手に結びつくことがハンドボール界の発展に結びつくことはいうまでもなく、過去のナショナル選手になって初めて世界の経験を体験する過程とは、根本的に異なった状態の選手の育成が可能になることは充分に考えられる。

技術的にも完成されていない年代に世界のプレーを体験し、体験したし、その段階で再度体験出来るとしたならば、協会や指導者がメンタルなイメージを持たない選手に、100回同じ説明を繰り返す状態よりも、一度の経験で充分すぎる程のイメージとしてとらえることが出来るであろう。

このような流れのなかで育った選手がナショナルチームのメンバーに選ばれる時代が来た時、日本が求めるターゲットに対し、どのような練習過程に目標を置き消化するかが問題とされ、現ナショナルチームが、年1回～2回の遠征を行いながら苦悩して問題解決を満たす条件は充分であろう。

この高校→(大学)→実業団のシステムラインの奨励を協会の援助と努力によって発展に結びつく具体的検討が行われるか否かは、大きい意味と課題を持つことと考えたい、しかし経験するといっても、ただ単に経験することのみに効果を求めるには、あまりにも経済的条件と選抜される条件回数に問題を残し、少ない回数のなかで、より効果を求めることに検討されるようなポイントが置かれなければならないが、要因として考えられる条件は、ヨーロッパ諸国のシーズン制と日本のシーズンの関係である。

ヨーロッパ諸国は、年間1シーズン制で9ケ月間続き、シーズン前の準備期は1ケ月から1ケ月半と短く、8月～9月上旬が準備期にあたる。9月中旬～6月下旬がシーズン中であり、最も多くの試合を求めているのはこの準備期であり、シーズン中の親善にはメリットとなる目的と評価によって対戦意欲に大きい差異がある。

国際親善と言えども、次の週に大切な試合を控えている場合などは、調整試合として消化することも、さして珍しい傾向でもなく実態である。

試合の勝敗は、スケジュール中の過程ポイントと価値感によって判断されている。

日本チームが遠征を行うには、この事情と国内スケジュールとを

調整した後に、遠征時期の選択がより大きい効果をもたらすことにもなり、この条件を満たさなければ単に遠征しただけに終ることにもなる。さらにナショナルチームの遠征には、シーズンが6月中旬に終了する条件から、スタッフ関係者が終了前のチームを分析し、観戦する機会が持て、対戦チームの選択が行えるよう指導したいと考える。

なお、このシーズン終了前には、各国のブンデスリーグのカップ戦を初め、ヨーロッパカップ・トーナメントカップ・IHFカップとありとあらゆるカップ戦を行いながら、リーグの最終を迎えるため、各チームの攻防、および展開技術の分析を含めた観戦には、満足できるものが多く含まれて、この観戦を基に準備期に遠征を行える交渉を行うことも一つの方法ではないであろうか。

体験後の分析に至っては、スタッフ関係者が行うか、選手個人が体験に基づいた分析を行うかが取り上げられるが、選手個人の判断に分析をまかせることは困難な問題も残し、分析は指導者によって方針と目標の中にスピリットを含めた伝達を行われることが大切であり、この正確性とスピリットに関係する。

メンタルな面の伝え方が練習過程に大きい影響を及ぼすと考える。遠征を一時的な感情と気持に終わらせるか、長いイメージとしてメンタルな気持ちの中に残しておくかが、遠征を体験するもうひとつの意義であり、この方法の再検討の余地は多く残されているであろう。〝鉄は熱いうちに打て〟と諺にあるように、遠征を体験した後の選手に伝達したり分析結果の正確さを活動に生かす方法が効果的に行われるならば、短い遠征が何倍にも生れ変わり選手の認識にも次の目標にも結びつくことになり、イメージの強烈さのなかに、練習効果の求められ方にも援助になるのではないだろうか。

国際試合と情報収集

ハンドボール競技がヨーロッパ諸国を中心に現在なおも運営発展を続けていることは、すでに承知の通りであるが、国際試合を行うことの不可欠な条件下に、ターゲットとする相手の情報収集を取り上げることが出来る。

近隣するヨーロッパ諸国では、常にこのような分析が行われターゲットと定める対戦国への目標および方針の中で、スケジュール、練習プランの立案が行われている事実を見る。必要とする情報はチームの傾向、展開、内部事情、監督、コーチ名、選手名その他、戦いに必要と思われる諸条件、それ等を何も知らなくては、戦うことも勝つことも出来ない。

情報管理の第1段階は（情報の取材にある）ことはいうまでもなく、情報量が少ないのによい管理が出来るわけはない。第2段階は、キャッチした情報の分析、検討である個別のデーターを集めることが出来たとしても、正確に取捨しなければ管理した事にもならない。

最終的には、取材分析した情報に基づいて、それらを実戦活動に活性化することであり、関係スタッフが管理されたデーターを総合し、練習活動、あるいは試合の実戦に結びつけることが出来るよう、前向きに決断しなければならない。逆に「情報管理」のミステイクから敗北に結びつく例は、次のような原因を含んでいる。

1、全く取材できなかったケース

2、取材してもその分析を誤ったケース

3、取材分析がなされてもそれを現実の行動に活かせなかったケース

この情報収集、分析、活性化の一連の流れには、当然ながら現場スタッフと分析担当のプロジェクトチームの存在を認めるものであり、分業システムの協同作業と、検討に合理性と役割認識の深さを知らなければならず、このような方法の中で国際試合を行うための準備を必要とされる情報の取材、および管理が行われるものであり、およその概念のみをチームの傾向、動向、内部事情を実力と考えて安易に戦うこととは大きい相似のある結果になることを熟知しなければならない。地理的にも、非常に不利な条件を持つ日本が、今後何らかの方法を持って現在より多くの情報収集のシステムを確立出来るよう、検討されなければならず、また実現された折には、現場スタッフに大きい協力者と変わることも推測される。

情報収集には、量の多少と速さと正確さが最も大切な要因となり、成果を上げる効果を左右することに関係が深いものである。

取りあげた課題とテーマについては、すでに現場スタッフで実行に移されているものも多くあろうし、考案中であるものもあるであろうと考える。また国際大会に参加しているスタッフは個人的にそれぞれ深い考えもプランニングもあり、現場で取り組む姿勢も情熱も持ち合わせていると考えるが、いかに1人1人が大きく深い考えを持とうとも、1人1人が力を発揮することは、全体的には小さく弱いものに終わる結果を体験するものであり、男女共、アジアでさえ日本の地位を脅やかされる今日、協会も現場も一体となった強化を図らなければ、日本ハンドボール界は、世界の仲間入りはおろか、世界大会の会場へも足を運ぶチャンスを完全に失うことになりかねない。

アジアで韓国、中国の台頭、女子は2回の世界大会の切符と1回のオリンピック出場権を韓国に譲り渡している。選手には強い精神と新しい展開技術を、スタッフには国際感覚の真意と具体的検討が出来る情報収集と分析の努力を切望する。


全日本斎藤君と

競技規則について

土浦一高　斎藤和夫

ありったけの青春をぶっつけて燃焼したハンドボール競技に始めて接してから、早くも36年の年月を経ようとしている。その青春をかけた生活は今だに忘れられず、母校の教職にたずさわりながら、広狭の意味において後輩の指導に余念のない現在、私をとらえているものの一つに競技規則の効用や判定、及び運用等に対する種々の様相がある。

規則にふれる二つの分野

いかなる社会にあっても、人間生活を営むための道徳的な理想的関係を保つために踏みこえてはならないラインが引かれている。このラインを各人が固く守っているという信頼の上に我々の生活が成り立っている。ラインは法律とか規則とかいわれているが、イデア、規制原理、法の理念等と異なり、生き生きとして現実に躍動するものである。つまり理念的関係は歴史的体得の累積であり、ラインは実生活の指標であるとみられるからである。

この二つは通常我々の心に共存し、二者択一の場や、二律背反、その他さまざまな人間模様を描き、混乱や種々の社会問題を引きおこす要素となっている。そこで、これらを有効に規律する必要が生まれてくる。

さて、運動競技も一つの社会である。定められたライン、つまり規則を守ることによって運営されている。この規則にふれるものには大別して二つの分野がある。一つは意志に関係しない物理的現象、他は意志範囲に所属するものであり、これらが自然科学的に統一されて行われている。この事を熟知して規則を守るという信頼の上に立って行われる競技もラインを踏みこえることがある。

この時は、㈠、安全度の強化と安全の維持、㈡、活動の指標、㈢、体制的になっているか、の三点から、㈠違反行為をなくす、㈡違反行為があった場合どうするか、㈢人間の尊厳に基づく復讐心をなくす、という形でタリオの法やホフマン法とまではいかないまでも規制されるのである。

しかし、「しかあるを花は愛惜に散り……」と道元禅師が書いているように、経験の限りをつくしても人間の限りない創意は、方法技術、環境及び制限の裏側、規制外の研究、思考法の変革、さまざまな場面の事実等あり、適用しようとする規範が見当らない時もあって、完全な形で規制する事が不可能の場面にも遭遇する。その時は通常、原理から引き出して処理するわけであるが、それらの経過の内には、規則運用者としてのレフリーの資質が重要な意味を持って来る。レフリーは特定集団、特定個人をたおすシカリーであってはならない。「私権の享有は出生に始まる」、とした人間の尊厳とは何か、を身につけておく必要がある。

過去において観衆は場外のレフリーといわれた時代もあったが、現在は情報化時代を反映して、観衆も各々の体制や目的を持っているのが普通であり、さらにレフリーも専門的に分化され研究されている現在、それに左右されることは権威を私することとなり、もはやレフリーというべきではない。

役人をくじ引きで決めたアテネの習慣よりも愚かなことというべきである。とはいっても、レフリー、プレーヤー、観衆、共に人間が構成しているものである。その人間は限りない欲望を持っている。常に欲望充足のために活動しながら生存しているため、お互いに到達した競技規則の合意も、現実にはなかなか理想的な関係として通用させることはむずかしいのである。

規則と希望的観察

我々は約束という規則そのものは、何か強い拘束力があると信じたいのであるが、これは前記したように歴史的経験の累積や、当事者自身の本質的道徳力によるものであり、それによって必ず実行されるのではないかの希望的臆憶にすぎないことを知らされる。その内容的なものには自己主張、社会的名声、所有欲の三つをあげることができる。つまり人間は自分自身のためにだけ努力したいという一面がある。また見方を変えれば自己の欲求を他の犠牲において達成し、満たそうとしているようにも見える。欲求の前面にある障害物については、万に一つの方法であっても試み、その打破のために思いめぐらし、悩み、努力しているとも受け止められる。

それらについて東西の関係諸説を見てみると、運動競技という社会であっても、㈠正義（規則を守る）、㈡守らせる力、㈢保障、㈣均衡の諸要素が厳然と合まれる必要がある。

人間が規則という権威に服させられる時、正義は公正という権威にて行われるべきであり、当事者自らの正当化の力であってはならない、それと共に犯された者の保障をも忘れてはならないし、全体的妥当性がなければならない、その欠除は無秩序と和の破壊に直接的に連動する、そして、この保障は均衡に留意することが肝要である。

人間の協同的不能と自己中心的本能との均衡、個と他との均衡の保持、心の底にある反社会的衝動の可能性をこれによって押える必要があるからである。しかし、それが可能であったとしても個人の理性や良心に訴えるところがなければ、本質的な正当性は見え出せないという点は残る。

発想を変えれば、競技関係者全員が、規則を熟知した上での行為であるから当然規則に従う筈であるという考えも成立する。しかし、この二つの考えもレフリーの規則の強行の前には、現実として全く無力である。したがってレフリーには高い識見とその能力が最重要な問題であり、同時にプレーヤー自体の自覚と人間としてのレベルがクローズアップされる。

そこでレフリーの規則の強行にはおのずから限定が必要になって来る。それは、㈠、規則は行為だけを扱う事にし、人の気持や精神的動きを憶測して運用してはならない。㈡、レフリーの権威によって意志を強制するとき規則に照らして軽重、不公平があってはならない。㈢、規則による戒律は自分の意志で行うものでなく、前後際断し無我の境地にて行うこと、の三点の心構えを欠かしてはならない。

とはいうものの規則の目的達成は理想をはなれては成立しない。理想像があってこそ、それに近ずく手段として規則存在の価値があるとするのも、また事実であると考える。

すなわち、試合の場は刻々絶対であり、プレーヤー自身一時の位、レフリーもまた一時の位としてある筈であるから、競技規則は円満な無自性そのものとして受けとめられなければならないと考えるものである。

茨城県ハンドボール協会審判長

テーマは「人間と機械」
OMRON

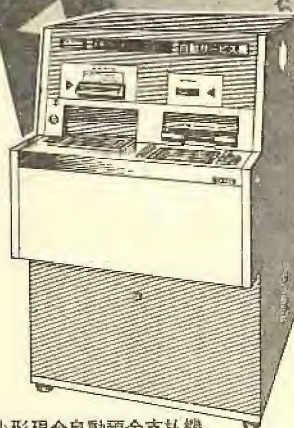
人間と機械との対話。



機械化、無人化がすすみ、人間と機械との関わりあいが深まるにつれ、より扱いやすく、より親切な機械の開発が望まれてきました。目から、耳から、人間との対話をはかろうとする試みがそれです。

すっかりおなじみになった銀行の機械化コーナー。そこでは、CRTを採用した操作案内で、きめ細かなメッセージをおとどけしている支払機や預金機が。レストランでは、表示・レシートをもカナ文字ででてくる電子レジスタが…。

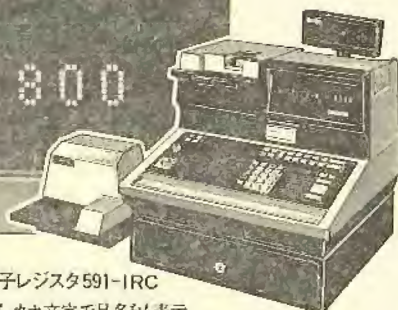
このように、オムロンは〝人間と機械との対話〟を推し進めながら、その新しい歴史をつくっています。



OMRON小形現金自動預金支払機

預金・支払・両替・記帳・残高照会…など、目的にあわせて、CRTでわかりやすく操作案内。だれもが間違いなくスムーズに使いこなすことができます。





OMRON電子レジスタ591-IRC

価格だけでなく、カナ文字で品名をも表示、さらにレシートにも同じカナ文字で印字。明瞭で気もちよい会計が行なえます。



立石電機株式会社
〒616京都市右京区花園土堂町10
TEL075(463)1161大代

第4回東日本学生選手権

筑波大が輝く"アベック優勝"

第4回東日本学生選手権は、8月17日から21日までの5日間、男子29校、女子8校が参加して開催された。

優勝争いは、筑波大が男子は2年ぶり2回目、女子は初の優勝を飾った。

＜男子＞

▽予選リーグ

○Aブロック

日大（関東）30（19－3、11－6）9 金沢大（北信越）
金沢大 24（11－14、13－10）24 山形大（東北）
日大 41（22－3、19－2）5 山形大

○Bブロック

日体大（関東）34（20－9、14－4）13 東北学院大（東北）
東北学院大 34（18－14、16－11）25 北海道大（北海道）
日体大 45（23－5、22－2）7 北海道大

○Cブロック

大東文化大（関東）22（9－6、13－9）15 横浜国大（関東）
筑波大（関東）23（12－4、11－4）8 福島大（東北）
筑波大 27（15－4、12－1）5 横浜国大
福島大 22（13－6、9－12）18 横浜国大
福島大 31（14－17、17－6）23 大東文化大
筑波大 30（16－7、14－6）13 大東文化大

○Dブロック

中大（関東）24（13－8、11－3）11 仙台大（東北）
東京農大（関東）23（11－6、12－5）11 北海道工大（北海道）
仙台大 22（12－5、10－4）9 東京農大
中大 50（24－3、26－5）8 北海道工大
仙台大 44（24－4、20－2）6 北海道工大
中大 37（19－3、18－4）7 東京農大

○Eブロック

専大（関東）16（7－6、9－6）12 東海大（関東）
国士舘大（関東）27（15－6、12－6）12 函館大（北海道）
東海大 19（13－7、6－9）16 函館大
国士舘大 27（15－3、12－9）12 専大
国士舘大 29（14－5、15－5）10 東海大
専大 25（14－5、11－10）15 函館大

○Fブロック

早大（関東）25（14－4、11－4）8 宮城教育大（東北）
宮城教育大 22（11－11、11－8）19 茨城大
早大 23（13－6、10－9）15 茨城大

○Gブロック

東北大（東北）25（13－8、12－8）16 明星大（関東）
慶大（関東）27（14－7、13－6）13 金沢工大（北信越）
慶大 22（13－7、9－3）10 東北大
金沢工大 20（9－7、11－10）17 明星大
慶大 23（14－3、9－6）9 明星大
金沢工大 25（14－12、11－12）24 東北大

○Hブロック

上智大（関東）23（13－10、10－4）14 東大（関東）
法大（関東）32（13－11、19－8）19 岩手大（東北）
法大 30（17－4、13－4）8 上智大
岩手大 33（14－11、19－7）18 東大
法大 21（14－6、7－8）14 東大
岩手大 24（15－5、9－9）14 上智大

▽決勝トーナメント

○1回戦

筑波大 26（15－4、11－9）13 慶大
日体大 30（16－10、14－9）19 法大
国士舘大 20（12－7、8－8）15 中大
日大 32（20－11、12－8）19 日大

○準決勝

筑波大 24（12－9、12－11）20 日体大
日大 27（14－9、13－10）19 国士舘大

○3位決定戦

国士舘大 23（11－8、12－12）20 日体大

○決勝

筑波大 22（10－7、12－13）20 日体大

得	【筑波大】		【日大】	得
0	佐藤	GK	森田	0
0	山崎	GK	宮田	0
4	中島	FP	糸	4
0	竹野	FP	永井	2
2	古屋	FP	馬場	0
1	原井	FP	伊藤	1
1	吉兼	FP	曽沼	2
6	朝生	FP	宮沢	0
0	児玉	FP	田口	3
2	杉森	FP	河村	0
1	角	FP	内藤	3
0	田中	FP	金原	1
17	(5)	PT	(2)	16

（審・田村、小友）

＜女子＞

▽予選リーグ

○Aブロック

日女体大（関東）22（13－7、9－11）18 東学大（関東）
日体大（関東）24（7－8、17－0）8 岩手大（東北）
東学大 18（9－3、9－3）6 岩手大
日体大 27（12－8、15－6）14 日女体大
日体大 25（14－3、11－8）11 東学大
日女体大 23（11－5、12－8）13 岩手大

○Bブロック

茨城大（関東）13（7－7、6－5）12 東海大（関東）
筑波大（関東）17（8－8、9－3）11 東女体大（関東）
東女体大 31（15－2、16－4）6 東海大
筑波大 28（15－7、13－2）9 茨城大
東女体大 22（13－3、9－3）6 茨城大
筑波大 28（17－4、11－2）6 東海大

▽決勝トーナメント

○準決勝

日体大 19（12－3、7－10）13 東女体大
筑波大 35（20－6、15－13）19 日女体大

○3位決定戦

東女体大 27（12－3、15－4）7 日女体大

○決勝

筑波大 22（10－7、12－13）20 日体大

得	【筑波大】		【日体大】	得
0	久保	GK	高倉	0
0	樽谷	GK	広瀬	0
5	山口	FP	国府	1
7	河原	FP	池内	1
0	鈴木	FP	県田	0
0	山田	FP	石原	2
0	大地	FP	宮田	6
2	伊賀	FP	山本	2
3	高木	FP	李	0
2	中田	FP	上嶋	0
3	市川	FP	小口	3
0	芥川	FP	吉岡	5
22	(0)	PT	(3)	20

（審・増田、上川）

西ドイツ女子チーム来日

全日本女子完敗

—暗い〃再生〃への道—

西ドイツ女子代表チームを招いての国際招待試合が、8月12日から15日まで、ブラザー工業、ジャスコ、全日本女子との間に日本各地で行なわれた。

3年ぶりに本場ヨーロッパのナショナルチームを招き、しかも今春世界選手権アジア予選で韓国に完敗した全日本女子チームの再生への戦いということで期待されたが、その全日本女子は故障者が多く、コンビネーションも悪く完敗僅かにジャスコが鮮かな逆転勝ちで気を吐いたにとどまった。

西ドイツ代表は3戦して2勝1敗の成績で帰国。

▽8月12日（名古屋市露橋スポーツセンター・愛知県）

西ドイツ 27（16—9、11—8）17 ブラザー工業

得	【ブラ】	
0	畑添	GK
0	大藪	GK
6	杏原	FP
0	竹内	FP
2	増永	FP
0	太田	FP
5	植田	FP
3	塩屋	FP
1	尾崎	FP
0	松下	FP
0	小野島	FP
0	松岡	FP
17	(6) PT	

得	【西ドイツ】	
0	フーン	GK
0	アーノルト	GK
0	ブラブ	FP
4	ヤネッヒ	FP
1	プラテン	FP
4	ケスター	FP
2	ベッケル	FP
4	バッテス	FP
1	シュミット	FP
0	ピエルバウム	FP
8	ステルベルグ	FP
0	ボック	FP
27	(3) PT	

（審・森、川島）

（西ドイツ）キプケ（2）、ヴォルフ（0）、コッヒ（0）、コーレル（1）

○…ブラザーは、植田の右サイドや塩屋のロングなどで先行、しかし西ドイツもステルベルグ、ヤネッヒの強引なポストで同点に追いつく。

ブラザーも健闘、よく前半を互角に戦ったものの、西ドイツも徐々に余裕を持ち始め、後半に入ると左腕ステルベルグにロングを打たせ、疲れの出たブラザーのディフェンスを突き破った。

▽8月13日（四日市市体育館・三重）

ジャスコ 23（13—11、10—11）22 西ドイツ

得	【ジャ】	
0	矢部	GK
0	木村	GK
2	辻本	FP
7	寺沢	FP
3	重村	FP
2	松岡	FP
2	若林	FP
5	横山	FP
2	今里	FP
0	鷲野	FP
0	上丸	FP
0	石田	FP
23	(9) PT	

得	【西ドイツ】	
0	フーン	GK
0	アーノルト	GK
0	ブラヒ	FP
2	ヤネッヒ	FP
4	プラテン	FP
2	ケスター	FP
2	ベッケル	FP
1	バッテス	FP
0	シュミット	FP
0	ピエルバウム	FP
3	ステルベルグ	FP
4	ボック	FP
22	(3) PT	

（審・秋山、部薗）

（ジャ）仲田、鎌田、田中、三木、宮本、野村（各々0）（西ドイツ）キプケ（2）、ヴォルフ（2）、コッヒ（0）、コーネル（0）

○…前半、ジャスコは若林、横山の速攻で2点を先行、西ドイツもヴォルフがポスト、シュミットがサイドから押し込んで追いつく。その後もジャスコの速攻、西ドイツのポスト、サイド攻撃で一進一退の展開となる。

後半に入っても依然一進一退のまま残り5分には西ドイツが22—20と2点リード。しかし、ここからジャスコが猛反撃、松岡がペナルティー、重村が速攻、再び重村の逆速攻からペナルティーを誘い23—22と遂に逆転。これが残り1分半。

残り1分に西ドイツがペナルティーのチャンスを得たが、これをジャスコGKの矢部が見事に止めて、ジャスコが見事逆転勝利を飾った。

▽8月15日（横浜文化体育館・神奈川）

西ドイツ 25（15—8、10—10）18 全日本

得	【全日本】	
0	井村	GK
0	矢部	GK
0	岩村	FP
1	横山	FP
5	西	FP
3	桑原	FP
0	姫野	FP
0	石井	FP
1	辻本	FP
2	前田	FP
4	藪田	FP
2	寺沢	FP
18	(2) PT	

得	【西ドイツ】	
0	アーノルド	GK
0	ブラヒ	GK
3	ヤネッヒ	FP
5	プラテン	FP
5	ケスター	FP
0	ベッケル	FP
3	バッテス	FP
2	ピエルバウム	FP
5	ボック	FP
0	キプケ	FP
1	ヴォルフ	FP
1	コッヒ	FP
25	(9) PT	

（審・大塚、佐分）

○…13日にジャスコに逆転負けを喫した西ドイツチームは、この日はナショナルチームとの対戦とあって試合前から気迫がこもっていた。

前半立ち上がり、辻本、藪田のロング、寺沢の速攻などで6分には4—3と全日本が優勢の展開。しかし、ここから西ドイツが反撃3連続ゴールをものにして6—4と逆転。ここで日本は石井に代えて西を投入、10—10と同点に追いついて前半終了。

後半、西ドイツは気迫のこもった積極的な攻撃を展開、全日本も10分ぐらいまでは何とか互角に戦ったが次第にディフェンスが崩れはじめ、攻守ともにチグハグとなって一気に点差を開かれてしまった。西ドイツの強引なプレーに全日本のディフェンスが悪く、〃再生〃を目ざす全日本女子チームにとって大変あと味の悪い試合となった。

男子21回、女子11回西日本学生選手権

大体大が男女"アベック優勝"

西日本学生選手権は、7月5日から8日まで京都府立体育館、京都市立体育館で開催された。

男子は11年連続11回目、女子は7年ぶり3回目の優勝を大体大が"アベック優勝"で飾った。

〈男子〉

▽1回戦

同大(関西)	27	12-9 / 15-3	12	修道大(中四国)
熊本大(九州)	20	10-11 / 10-7	13	山口大(中四国)
京大(関西)	24	13-10 / 11-9	19	九州大(九州)
近大(関西)	33	16-9 / 17-11	20	大分大(九州)
京都産大(関西)	27	15-12 / 12-11	23	九州産大(九州)
中部工大(東海)	31	14-10 / 17-8	18	大阪大(関西)
広島大(中四国)	20	13-7 / 7-11	18	和歌山大(関西)
中京大(東海)	26	13-10 / 13-6	16	関学大(関西)
大阪学院大(関西)	17	9-5 / 8-11	16	名古屋工大(東海)
京都教大(関西)	33	16-12 / 17-7	19	愛知教大(東海)
大阪経大(関西)	40	19-5 / 21-1	6	広島工大(中四国)
福岡教大(九州)	31	16-12 / 15-7	19	関西大(関西)

福岡大(九州)	36	21-13 / 15-9	22	大阪府大(関西)
名学大(東海)	28	16-12 / 12-12	24	愛媛大(中四国)
大阪体大(関西)	56	26-7 / 30-6	13	長崎大(九州)

▽2回戦

同大	28	13-6 / 15-9	15	熊本大
近大	27	15-9 / 12-11	20	京大
中部工大	31	15-5 / 16-12	17	京都産大
名城大	25	13-11 / 12-5	16	広島大
中京大	24	13-6 / 11-9	15	大阪学院大
大阪経大	20	10-5 / 10-8	13	京都教大
福岡大	20	12-9 / 8-5	14	福岡教大
大阪体大	43	22-3 / 21-8	11	名古屋学院大

▽準々決勝

同大	22	11-5 / 11-7	12	近大
中部工大	28	14-15 / 14-10	25	名城大
大阪経大	21	14-7 / 7-10	17	中京大
大阪体大	32	15-7 / 17-6	13	福岡大

▽5～8位決定戦

近大	28	14-14 / 14-12	26	中京大
名城大	24	16-10 / 8-9	19	福岡大

※勝者を5・6位、敗者を7・8位とし、1回戦からの得失点差で⑤名城大、⑥近大、⑦中京大、⑧福岡大となった。

▽準決勝

同大	21	11-7 / 10-12	19	中部工大
大体大	27	9-11 / 18-7	18	大経大

▽3位決定戦

大阪経大	27	17-10 / 10-12	22	中部工大

▽決勝

大阪体大	18	9-10 / 9-6	16	同大

得	【大体大】		【同大】	得
0	高橋	GK	渡井	0
0	小野	GK	花田	0
5	山本	FP	蛍江	2
3	上野	FP	高砂	4
1	土山	FP	森重	2
8	玉村	FP	田島	0
0	菅沼	FP	宮下	5
0	半田	FP	児玉	0
1	西村	FP	鈴木	0
0	長野	FP	奥畑	3
0	小間	FP	大本	0
0	古賀	FP	岩本	0
18	(3)	PT	(0)	16

（審・六原、新井）

〈女子〉

▽1回戦

福岡大(九州)	30	16-9 / 14-4	13	和歌山大
九州女短大(九州)	34	17-3 / 17-11	14	天理大
中京女大(東海)	17	7-5 / 10-1	6	京都教大(関西)
山口大(中四国)	21	10-8 / 11-11	19	成蹊女短大(関西)
中京大(東海)	16	9-4 / 7-7	11	大阪教大(関西)

▽準々決勝

大阪体大(関西)	31	15-4 / 16-6	10	福岡大
九州女短大	21	12-8 / 9-8	16	中京大
武庫川女大(関西)	38	23-2 / 15-3	5	山口大
福岡教大	18	8-12 / 10-4	16	中京大

▽準決勝

大阪体大	24	11-6 / 13-8	14	九州女短大
武庫川女大	22	12-12 / 10-5	17	福岡教大

▽3位決定戦

福岡教大	30	19-12 / 11-13	25	九州女短大

▽決勝

大阪短大	15	9-6 / 6-4	10	武庫川女大

得	【大体大】		【武庫川】	得
0	竹山	GK	水谷	0
0	田中	GK	三宅	0
2	塚田	FP	藤山	2
6	伊勢	FP	尾高	0
0	大里	FP	冨田	4
0	小川	FP	梅木	2
1	筒井	FP	守行	0
0	円屋	FP	神並	0
0	松木	FP	高橋	1
2	森山	FP	前田	0
3	川端	FP	岡山	1
1	橋本	FP	仲	0
15	(5)	PT	(3)	10

（審・小西春、堀田）



給与の
お引き出しに…



出張に…



ショッピングに…



銀行が
閉まった後で…
（ダイワの外壁や コーナー）



旅行に…



ふいの出費に…

こんなとき便利な ダイワ キャッシュカード。



日常のお引き出しに…

カード1枚で現金自動支払機から手軽に現金が引き出せます。通帳もハンコもいりません。サイフがわりにご利用を…。

時間外のお引き出しに…

ダイワの外壁に面したキャッシュコーナーでは、平日午前8:45～午後6:00（土曜日は午前9:00～午後2:00）まで、また マークのコーナーでは、平日午後5時、土曜午後2時まで現金が引き出せます。

ご出張やお買物の折に…

お出かけ先で現金がご入用になったときダイワの全店にあるキャッシュコーナーや マークのコーナーがお役に立ちます。

給与のお引き出しに…

給与振込制をご採用の場合は、お給料日の朝からカードを使って引き出せます。奥さまもご自宅近くのダイワでどうぞ…。

ダイワキャッシュカードは総合口座（普通預金）をご利用の方におつくりしています。お気軽にお申込みください。

あなたと明日を
預金も
信託も…
大和銀行

マークのコーナーでは設置場所により、お取扱い時間が異なる場合があります。
また、日・祝日および設置場所の休業日はお取扱いしません。

男子25回、女子10回全日本教職員選手権

栃木県勢がアベック制覇

男子第25回、女子第11回の全日本教職員選手権は、8月8日から12日までの5日間、群馬県富岡市で開催された。
男子は栃の葉クラブが二連覇、女子は栃の葉女子教員が2年ぶり3回目と共に栃木県勢が優勝を飾った。

＜男子＞

▽1回戦

福井教員 27（14 13／19 13）22 三重教員
大阪教員ク 26（15 11／8 6）14 愛球会
愛知教員 29（15 14／10 10）20 長野教員
埼玉 26（14 12／6 8）14 岐阜教員
京都教員 27（14 13／10 5）15 岩手フェザント
富山教員B 19（12 7／7 11）18 奈良教職員B
奈良教職員A 37（18 19／10 11）21 越路ク
大阪ハンターズ 16（9 7／7 8）15 グランパス愛知
宮崎教員 35（17 18／9 12）21 愛教ク
富山教員A 32（13 19／9 12）21 香川教員
岩手教員ク 23（13 10／5 12）17 神奈川教員B

▽2回戦

栃の葉ク 32（17 15／8 5）13 福井教員
大阪教員ク 26（15 11／5 13）18 A・T・F
長崎教員 34（4 3 13 14／3 3 16 11）33 ロイヤルスワロー
神奈川教員A 20（10 10／6 11）17 愛知教員
山口県教員団A 29（13 16／7 8）15 埼玉
若潮ク 23（9 14／11 6）17 和歌山ク
京都教員 34（12 22／10 7）17 山梨教員
あかぎク 38（18 20／7 7）14 富山教員B
埼玉教員ク 30（17 13／8 13）21 奈良教職員A
茨苑ク 23（11 12／4 11）15 静岡県教員団
熊本教員 38（20 18／7 9）16 広島県教職員
東京教員 28（12 16／6 11）17 大阪ハンターズ
千葉教員 28（14 14／6 13）19 宮崎教員
鴨川ク 19（12 7／9 10）19 山口県教員団B
富山教員A 25（10 15／7 8）15 岐阜教員B
スワロー兵庫 21（7 14／11 9）20 岩手教員ク

▽3回戦

栃の葉ク 24（11 13／6 12）18 大阪教員ク
神奈川教員A 37（19 18／12 11）23 長崎教員
山口県教員団A 34（17 17／6 7）13 若潮ク
あかぎク 31（15 16／6 10）16 京都教員
埼玉教員ク 34（18 16／5 11）16 茨苑ク
熊本教員 24（11 13／6 8）14 東京教員
千葉教員 40（18 22／5 4）9 鴨川ク
スワロー兵庫 15（7 8／5 5）10 富山教員A

▽準々決勝

栃の葉ク 31（17 14／8 14）22 神奈川教員A
山口県教員団A 23（10 13／10 12）22 あかぎク
埼玉教員ク 21（10 11／8 6）14 熊本教員
千葉教員 18（10 8／6 4）10 スワロー兵庫

▽準決勝

栃の葉ク 29（15 14／10 11）21 山口教員団A
千葉教員 21（6 15／7 7）14 埼玉教員団

▽3位決定戦

埼玉教員ク 33（19 14／7 5）12 山口教員団A

▽決勝

栃の葉ク 22（11 11／9 10）19 千葉教員

＜女子＞

▽1回戦

埼玉白小嶋 17（8 9／1 1）2 茨城教員
千葉ク 17（8 9／3 5）8 東花ク

▽2回戦

大阪教員女 12（7 5／3 7）10 埼玉白小嶋
神奈川教員 20（10 10／6 5）11 愛知教員女子ク
栃の葉女子教員 15（8 7／7 3）10 京都教員
滋賀ク 14（7 7／2 9）11 千葉ク

▽準決勝

神奈川教員 18（7 11／2 6）8 大阪教員女
栃の葉女子教員 21（11 10／7 6）13 滋賀ク

3位決定戦

滋賀ク 20（9 11／8 4）12 大阪教員女

▽決勝

栃の葉女子教員 15（7 8／6 7）13 神奈川教員

●第2回全国クラブ選手権大会●

地元・滋賀がアベック優勝を飾る

第2回全国クラブ選手権大会は8月13日から3日間、男子24チーム、女子15チームが参加して滋賀県大津市で開催された。

今大会、地元滋賀が男女とも昨年の団体で成年の部で3位になったチームとほとんど同じ顔ぶれを揃えて参加、男子は二連覇を狙った湯沢クラブ（秋田）を、女子はブラザー工業のOGチーム、名古屋クラブ（愛知）をそれぞれ破りアベックで初優勝を飾った。

＜男子＞

▽予選リーグ

○Aゾーン

湯沢ク　13－11　セブンスターズ
湯沢ク　20－11　伏見ク
湯沢ク　23－13　前橋ク
セブンスターズ12－6　伏見ク
セブンスターズ17－9　前橋ク
前橋ク　19－14　伏見ク
（順位）①湯沢ク（秋田）②セブンスターズ（三重）③前橋ク（群馬）④伏見ク（京都）

○Bゾーン

清商ク　13－12　北野ク
清商ク　11－9　県和商ク
清商ク　12－10　蒲生ク
県和商ク　15－12　北野ク
県和商ク　15－9　蒲生ク
蒲生ク　15－10　北野ク
（順位）①清商ク（静岡）②県和商ク（和歌山）③蒲生ク（滋賀）④北野ク

○Cゾーン

江津ク　11－9　桜門会
江津ク　23－7　高島ク
江津ク　24－8　あすなろ
あすなろク　18－17　桜門会ク
あすなろク　27－6　高島ク
桜門会　23－14　高島ク
（順位）①江津ク（島根）②あすなろク（石川）③桜門会（東京）④高島ク（滋賀）

○Dゾーン

岩国ク　15－14　七戸ユニオン
岩国ク　14－9　アーガス
岩国ク　16－12　日川ク
七戸ユニオン　19－11　アーガス
七戸ユニオン　14－12　日川ク
アーガス　13－12　日川ク
（順位）①岩国ク（山口）②七戸ユニオン（青森）③アーガス（大阪）④日川ク（山梨）

○Eゾーン

氷見ク　15－13　筑波振球会
氷見ク　13－11　新居浜ク
氷見ク　18－14　生駒ク
筑波振球会13－11　新居浜ク
筑波振球会13－11　生駒ク
生駒ク　14－12　新居浜ク
（順位）①氷見ク（富山）②筑波振球会（茨城）③生駒ク（奈良）④新居浜ク（愛媛）

○Fゾーン

滋賀ク　21－10　聖光ク
滋賀ク　30－6　徳島ク
滋賀ク　19－5　蒲郡ク
蒲郡ク　14－11　聖光ク
蒲郡ク　23－6　徳島ク
聖光ク　20－14　徳島ク
（順位）①滋賀ク（滋賀）②蒲郡ク（愛知）③聖光ク（福島）④徳島ク（徳島）

▽決勝トーナメント

○1回戦

筑波振球会　15－10　蒲郡ク
七戸ユニオン20－7　清商ク
氷見ク　13－11　県和商ク
セブンスターズ20－9　あすなろク

○2回戦

湯沢ク　18－9　筑波振球会
七戸ユニオン14－12　江津ク
氷見ク　16－14　岩国ク
滋賀ク　10－7　セブンスターズ

○準決勝

湯沢ク　27－21　七戸ユニオン
滋賀ク　30－18　氷見ク

○3位決定戦

七戸ユニオン26－20　氷見ク

○決勝

滋賀ク　30（15－9　15－12）21　湯沢ク

【湯沢】		得
GK	吉田	0
GK	柿崎	0
FP	佐藤文	1
FP	古関	3
FP	菅野	5
FP	佐々木	1
FP	藤原	1
FP	半田	4
FP	斎藤	6
FP	高橋	0
FP	佐藤久	0
	計	(2) 21

得	【滋賀】	
0	石田	GK
1	位田	FP
1	伊藤	FP
8	能波	FP
8	井上	FP
2	武田	FP
1	岩本	FP
0	橋山	FP
8	村崎	FP
1	林田	FP
30 (4)		計

（審・井上、島崎）

＜女子＞

▽予選リーグ

○Aゾーン

名古屋ク　12－12　武蔵野ク
名古屋ク　13－10　神埼ク
名古屋ク　27－6　石川ク
武蔵野ク　15－11　神埼ク
武蔵野ク　24－4　石川ク
神埼ク　19－2　石川ク
（順位）①名古屋ク（愛知）②武蔵野ク（東京）③神埼ク（佐賀）④石川ク

○Bゾーン

あゆみク　13－9　風見鶏ク
あゆみク　19－3　富山想球会
あゆみク　12－11　光電ク
光電ク　13－8　風見鶏ク
光電ク　17－5　富山想球会
風見鶏ク　12－7　富山想球会
（順位）①あゆみク（三重）②光電ク（群馬）③風見鶏ク（熊本）④富山想球会（富山）

○Cゾーン

滋賀ク　18－9　広島HFG
滋賀ク　13－9　生駒ク
滋賀ク　21－7　保土ケ谷ク
広島HFG　16－3　生駒ク
広島HFG　10－5　保土ケ谷ク
生駒ク　8－3　保土ケ谷ク
（順位）①滋賀ク（滋賀）②広島HFG（広島）③生駒ク（奈良）④保土ケ谷ク（神奈川）

○Dゾーン

古都ク　11－7　びわこク
古都ク　6－6　熊本ク
熊本ク　10－8　びわこク
（順位）①古都ク（京都）②熊本ク（熊本）③びわこク（滋賀）

▽決勝トーナメント

○1回戦

名古屋ク　18－12　あゆみク
滋賀ク　20－12　古都ク

○3位決定戦

あゆみク　18－13　古都ク

○決勝

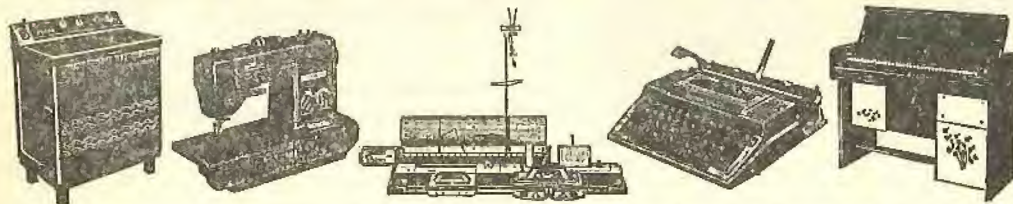
滋賀ク　19（10－5　9－12）17　名古屋ク

【名古屋】		得
GK	白神	0
GK	井戸田	0
FP	水光	3
FP	佐野	0
FP	後藤	0
FP	浦田	5
FP	宮平	6
FP	佐治	1
FP	岡本	1
FP	佐々木	0
FP	平井	1
	計	(3) 17

得	【滋賀】	
0	西村	GK
0	大堀	GK
1	藤本陽	FP
1	武田	FP
9	金綱	FP
0	辻	FP
0	西河	FP
5	今井	FP
0	藤本昌	FP
0	松井	FP
0	内堀	FP
3	藤本真	FP
19 (2)		計

PT（審・吉田、新井）





HANDBALL SPECIAL

NEW

3063 ¥12,000

3064

3065

SPECIAL

新登場、ハンドボールスペシャル。なぜ、「スペシャル」なのか。



あのシェルソールが、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をアップ。

世界選手権を始め、国際大会で圧倒的な使用率を誇り、数々の栄光へ導きつづけるアディダス・ハンドボールシューズが、スポーツ科学の最新の成果を背景にさらに新たなシェルソールを装備して登場しました。その名も「ハンドボールスペシャル」。速攻性の追求はもちろん、ソールの溝は極限の倒れ込みシュートでも安定した軸足を確保。ターンを容易にする回転ゾーンやグリップ性を高める吸盤、トレフォイル(3つ葉)パターンなど、ハンドボール競技におけるフットワークの意味をマキシムまで追求し、ダッシュ力、ストップ性、衝撃吸収性をさらにアップしています。

勝利を呼ぶ3本線

adidas®

The science of sport.

KSG 兼松スポーツ用品株式会社

〒532 大阪市淀川区木川東2-5-3☎06-305-1431 〒130 東京都墨田区緑2-12-3☎03-634-1411

各地の記録

◆第33回秋田県民大会（7月3、4日）

＜成年男子＞

▽1回戦
湯沢ク 23—14 大農OBク
大曲ク 19—14 並木ク
大曲同志会 27—15 秋南ク
VSOP 22—18 秋田ハンドク

▽準決勝
湯沢ク 41（18—11、23—7）18 大曲ク
大曲同志会 22（3—1、1—2、11—6、7—12）21 VSOP

▽決勝
湯沢ク 39（18—11、21—11）22 大曲同志会

＜少年男子＞
秋田高専 15—13 秋田南高
湯沢高 27—10 横手高

▽準決勝
大曲農高 36（19—3、17—6）9 秋田高専
羽後高 14（9—3、5—7）10 湯沢高

▽決勝
大曲農高 17（10—5、7—9）14 羽後高

＜成年女子＞

▽決勝
全和洋 28（17—5、11—7）12 農友会

＜少年女子＞

▽1回戦
大曲農高 21—2 横手東高
秋田和洋女高 11—10 湯沢高

▽決勝
大曲農高 18（8—1、10—3）4 秋田和洋女高

◆第37回国体茨城県予選兼県総体（7月3、4日）

＜成年男子＞

▽1回戦
茨苑ク 34—11 自衛隊勝田
日本原研 26—17 自衛隊古河一施大
麻生ク 27—18 鉾田ク

▽準決勝
筑波振球会 29（15—9、14—14）23 茨苑ク
麻生ク 31（20—13、11—10）23 日本原研

▽決勝
筑波振球会 41（21—10、20—9）19 麻生ク

＜少年男子＞

▽1回戦
水海道一高 20—14 県東A
県東B 17—9 水戸一高

▽2回戦
笠間高 22—20 水海道一高
県南A 20—12 県北A
県西選抜 27—21 県南B
県東B 15—13 県北B

▽準決勝
笠間高 25（12—12、13—12）24 県南A
県西選抜 23（14—6、9—5）11 県東B

▽決勝
県西選抜 19（11—6、8—11）17 笠間高

＜少年女子＞

▽1回戦
笠間高 10—7 県北選抜
下妻二高 16—4 友部高

▽2回戦
水海道二高 24—3 笠間高
県東B 8—7 竜ケ崎一高
高荻高 16—7 石岡二高
県東A 15—10 下妻二高

▽準決勝
水海道二高 21（14—5、7—5）10 県東B
県東A 17（6—6、11—2）8 高荻高

▽決勝
水海道二高 18（11—5、7—3）8 県東A

＜男子＞

▽1回戦
千代田ク 20—14 自衛隊古河
動燃東海 21—14 土浦ク

▽準決勝
茨城大 33（16—3、17—2）5 千代田ク
動燃東海 26（14—6、12—8）14 土浦三高OB

▽決勝
茨城大学 21（13—8、8—5）13 動燃東海

◆第37回国体石川県予選（7月4・11・18日）

＜成年男子＞

▽1回戦
寺井ク 棄権 レイボーク
県工ク 21—11 津幡ク

▽2回戦
金沢市役所 27—8 寺井ク
星稜ク 31—8 羽咋ク
小松ク 31—7 七尾ク
あすなろク 21—16 県工ク

▽準決勝
金沢市役所 29（15—7、14—6）13 星稜ク
あすなろク 23（9—13、14—7）20 小松ク

▽決勝
金沢市役所 33（19—14、14—11）25 あすなろク

＜少年男子＞

▽1回戦
明峰高 12—0 金沢商高
小松高 31—13 向陽高
松陵工高 21—19 小松商高
小松工高 38—6 二水高
県工高 28—16 松任高
羽咋高 19—10 泉丘高
錦丘高 22—19 星稜高
大聖寺高 18—15 金市工高

▽2回戦
小松高 不明 明峰高
小松工高 不明 松陵工高
羽咋高 18—15 県工高
錦丘高 32—15 大聖寺高

▽準決勝
小松工高 19（10—9、9—5）14 小松高
錦丘高 19（5—8、14—9）17 羽咋高

▽決勝
小松工高 39（17—10、19—5）15 錦丘高

＜成年女子＞
北国銀行

＜少年女子＞

▽1回戦
金沢商高 13—7 星稜高
小松市女高 12—0 明峰高
小松商高 11—3 松任高

▽準決勝
金沢商高 8（5—2、3—2）4 短大高
小松市女高 21（10—0、11—2）2 小松商高

▽決勝
小松市女高 34（17—3、17—0）3 金沢商高

◆第37回国体兼中学校大会青森県予選（7月16〜18日）

＜成年男子＞

▽1回戦
野辺地ク 26—8 青商ク
青森ク 12—0 航空群海自第二

▽2回戦
七戸ユニオン 47—15 野辺地ク
尾上ク 12—0 大湊ク
弘前ク 30—10 野辺地工高OB
青森ク 28—27 青森教員

▽準決勝
七戸ユニオン 28（13—8、15—10）18 尾上ク
青森ク 31（16—12、15—9）21 弘前ク

▽決勝
七戸ユニオン 23（8—9、15—12）21 青森ク

＜少年男子＞

▽1回戦

青森南高 14－13 野辺地工高

青森東商高 19－16 野辺地高横浜分校

柏木農高 27－10 鰺ケ沢高

七戸高 19－7 五所川原高

▽2回戦

青森商高 34－16 青森南高

野辺地高 31－13 青森東高

柏木農高 31－11 青森高

三本木高 17－10 七戸高

▽準決勝

青森商高 18（9－11, 9－6）17 野辺地高

三本木高 19（12－10, 7－8）18 柏木農高

▽決勝

青森商高 27（12－6, 15－3）9 三本木高

＜成年女子＞

あすなろク

＜少年女子＞

▽1回戦

青森中央高 15－7 七戸高

青森東高 11－8 三本木高

野辺地高 8－5 青森商高

▽準決勝

青森西高 14（8－5, 6－4）9 青森中央高

野辺地高 17（9－0, 8－3）3 青森東高

▽決勝

青森西高 16（7－9, 7－5, 1－1, 1－0）15 野辺地高

＜中学男子＞

▽1回戦

七戸中 19－6 百石中

三本木中 20－12 野辺地中

▽決勝

三本木中 16（7－8, 9－5）13 七戸中

＜中学女子＞

野辺地中

第32回九州地区大学体育大会

（7月16・17・18日）

＜男子＞

▽1回戦

九州共立大 27（14－9, 13－9）18 熊本工大

福岡教育大 22（11－8, 11－11）19 熊本大

西南学院大 17（8－9, 9－7）16 宮崎大

長崎大 33（17－12, 16－7）19 東和大

九州産業大 40（19－4, 21－3）7 長崎国際経済大

福岡大 30（13－5, 17－5）10 熊本商科大

西日本工大 28（14－9, 14－11）20 鹿児島大

九州工業大 24（9－7, 15－7）14 福岡工業大

▽2回戦

福岡教育大 27（8－4, 19－10）14 九州共立大

西南学院大 24（13－6, 11－8）17 長崎大

福岡大 32（18－6, 14－16）22 九州産業大

西日本工大 26（11－5, 15－12）17 九州工業大

▽準決勝

福岡教育大 30（16－10, 14－10）20 西南学院大

福岡大 42（23－8, 19－12）20 西日本工大

▽決勝

福岡大 24（9－10, 15－9）19 福岡教育大

○…大型でスピードの福岡大に対し、福教大は小柄ながらよく鍛えぬかれたチームの対戦。

前半は福教大のペースで10－9で終った。

後半は、10分に14－14と同点に追いついた福岡大。10分～20分までの10分間に牟田の3連続ゴールなどで5点を上げたのに対し福教大は、パスミス・キャッチミスが目立ち始め野田の1点だけ、又、福岡大第2キーパーの田中が福教大エース増山のペナルティーを3連続好補するなど、後半は福岡大のパワーがさくれつしたゲームであった。

＜女子＞

▽1回戦

宮崎大 27（15－1, 12－4）5 長崎大

▽準決勝

福岡教育大 31（19－4, 12－5）9 九州女子短期大

福岡大 25（13－7, 12－7）14 宮崎大

▽決勝

福岡教育大 30（13－10, 17－13）23 福岡大

○…予想どおり鍛えぬかれたチーム同士の対戦となった。

前半は福岡大が2－0と出足よくスタートしたが、その後、福教大キャプテン曽我部の連続3ゴールなど5分～15分の10分間に6点を奪取し逆転、しかも固い守りで無得点にきりぬけ前半13－10で福教大優勢で終った。

後半は、両チームとも互角の白熱した好ゲームが展開され後半20分までは23－20。しかし福教大がうまいパスワークと精神力で集中力の失くなった福岡大に連続5ゴールを決め福岡大の反撃を振り切った。

◆第37回国体山口県予選

（7月21・22・24・25日）

＜成年男子＞

▽1回戦

下松ク 28－20 徳山ソーダ

出光徳山 26－17 とおしろ

三井石油 23－14 日本石油

武田薬品 25－17 興亜石油

▽2回戦

下関ク 23－13 下松ク

岩国ク 28－18 出光徳山

徳山ク 28－19 三井石油

山口教員 31－24 武田薬品

▽準決勝

下関ク 26（10－12, 10－8, 2－2, 4－1）23 岩国ク

山口教員 32（13－14, 19－14）28 徳山ク

▽決勝

山口教員 35（18－12, 17－13）25 下関ク

＜少年男子＞

▽1回戦

宇部工高 20－17 南陽工高

山口高 31－26 高水高

岩国工高 45－8 防府商高

下関中央工高 20－15 徳山高

小野田工高 27－16 徳山工高

下松高 30－12 岩陽高

▽2回戦

岩国高 37－9 宇部工高

岩国工高 45－18 山口高

小野田工高 22－20 下関中央工高

下松工高 41－29 下松高

▽準決勝

岩国工高 23（9－8, 12－13, 2－0, 0－1）22 岩国高

下松工高 32（18－6, 14－9）15 小野田工高

▽決勝

下松工高 32（15－17, 17－4）21 岩国工高

＜成年女子＞

▽1回戦

岩国ク 14－5 山口ク

▽決勝

岩国ク 19（10－4, 9－6）10 徳山ク

＜少年女子＞

▽1回戦

岩陽高 13－11 徳山工高

徳佐高 12－12（2 PTC 1）高水高

岩国高 6－4 田部高

山口中央高 11－5 熊毛北高

▽2回戦

徳山商高 27－4 岩陽高

徳山高 19－6 徳佐高

防府商高 18－7 岩国高

岩国商高 13－4 山口中央高

▽準決勝

徳山商高 7（2－3、5－1）4 徳山高

岩国商高 17（9－4、8－5）9 防府商高

▽決勝

岩国商高 10（4－4、6－4）8 徳山商高

◆第37回大阪府高校秋季総体（8月17・19・20・24・25日）

○東ブロック大会

＜男子＞

▽準決勝

牧野 27－21 芥川

摂津 21－17 春日丘

▽3位決定戦

春日丘 30－19 芥川

▽決勝

摂津 28（17－6、11－7）13 牧野

＜女子＞

▽準決勝

春日丘 18－4 門真

香里丘 12－7 三島

▽3位決定戦

三島 9－7 門真

▽決勝

春日丘 13（6－3、7－3）6 香里丘

○中ブロック大会

＜男子＞

▽準決勝

桃山学院 33－1 池島

此花学院 17－9 天王寺

▽3位決定戦

天王寺 10－5 池島

▽決勝

桃山学院 11（4－5、7－5）10 此花学院

＜女子＞

▽準決勝

大谷 11－8 鶴見商

四天王寺 6－4 阪南

▽3位決定戦

鶴見商 10－8 阪南

▽決勝

四天王寺 6（2－5、4－1）6 大谷
2 PTC 0

○南ブロック大会

▽準決勝

堺東 27－18 和泉工

貝塚南 18－7 高石

▽3位決定戦

和泉工 22－15 高石

▽決勝

貝塚南 26（14－9、12－8）17 堺東

＜女子＞

▽準決勝

和泉 9－9 東百舌鳥
3 PTC 1

住吉学園 8－7 長野

▽3位決定戦

東百舌鳥 11－7 長野

▽決勝

住吉学園 18（14－3、4－5）8 和泉

○北ブロック

＜男子＞

▽準決勝

都島工 20－7 池田

桜宮 19－9 大阪学院

▽3位決定戦

池田 15－11 大阪学院

▽決勝

桜宮 18（6－7、12－8）15 都島工

＜女子＞

▽準決勝

桜宮 12－5 金蘭会

薫英 11－9 宣真

▽3位決定戦

宣真 10－7 金蘭会

▽決勝

桜宮 12（5－5、7－6）11 薫英

○中央大会

＜男子＞

▽1回戦

貝塚南 20－15 池島

池田 34－12 牧野

桃山学院 41－6 芥川

都島工 31－12 和泉工

摂津 25－14 大阪学院

天王寺 17－15 堺東

桜宮 25－10 高石

此花学院 36－7 春日丘

▽準々決勝

池田 17－16 貝塚南

桃山学院 20－13 都島工

天王寺 14－10 摂津

此花学院 15－14 桜宮

▽準決勝

桃山学院 22（11－0、11－5）5 池田

此花学院 18（9－3、9－8）11 天王寺

▽決勝

桃山学院 16（8－6、8－5）11 此花学院

＜女子＞

▽1回戦

住吉学園 18－11 金蘭会

香里丘 11－10 鶴見商

四天王寺 14－4 門真

薫英 14－10 東百舌鳥

長野 8－6 春日丘

大谷 12－11 宣真

桜宮 14－10 阪南

和泉 10－8 三島

▽準々決勝

住吉学園 18－4 香里丘

四天王寺 10－8 薫英

大谷 20－4 長野

桜宮 14－7 和泉

▽準決勝

四天王寺 11（7－2、4－8）10 住吉学園

大谷 11（6－1、5－3）4 桜宮

▽決勝

大谷 13（8－3、5－3）6 四天王寺

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第二一一号
昭和四十年十一月一日　第三種郵便物認可
昭和五七年八月二十五日印刷　昭和五七年九月一日発行
〒渋谷区神南一ー一ー一
代表(467)七〇九七
振替東京六ー五八三四八番
編集兼発行人　荒川清美
定価三百五拾円
(年間購読料三千三百円)